

# VI 女性の人權

## 1 女性の人權が尊重されていないと思うこと

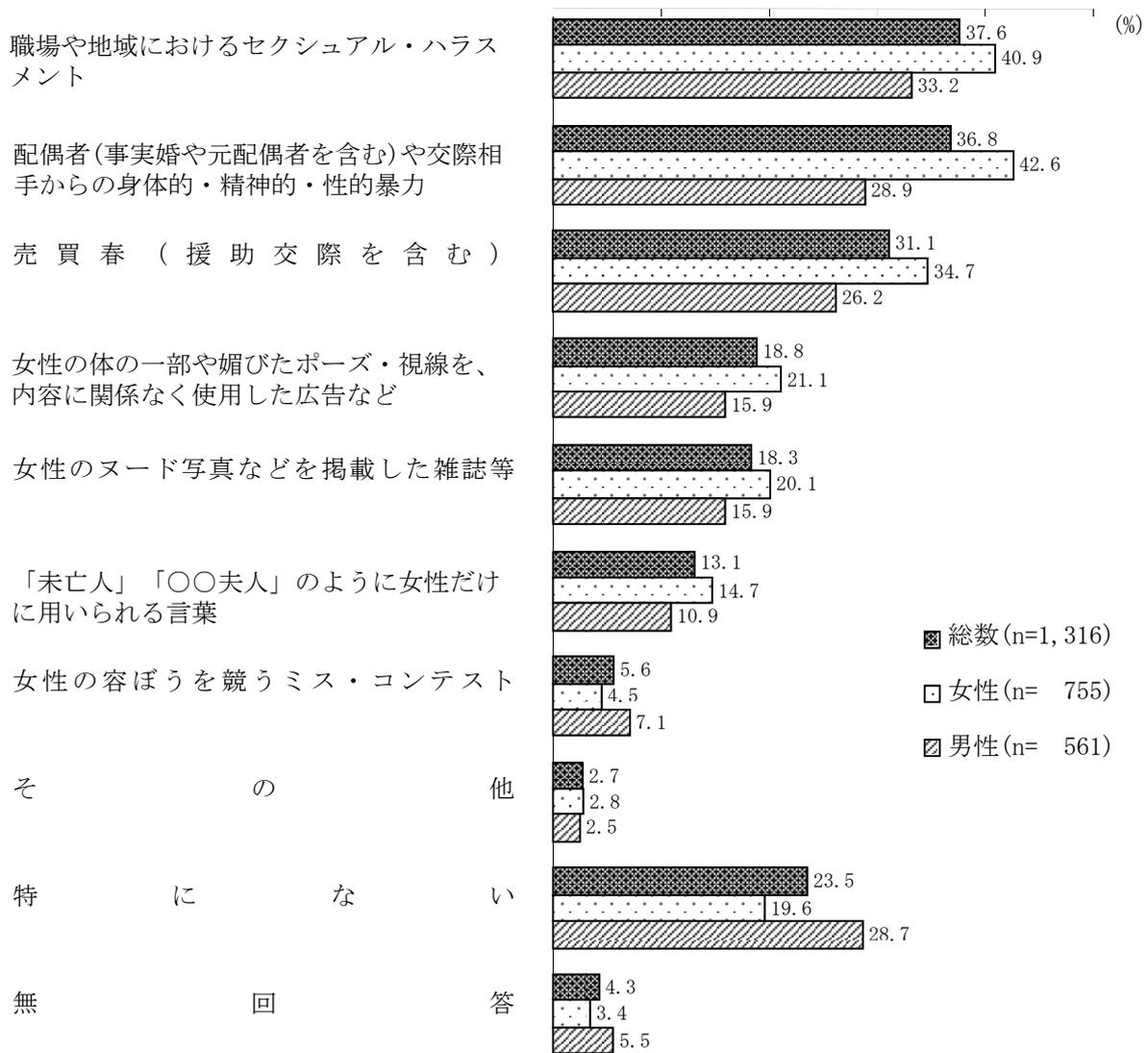
問17 女性の人權が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。(〇はいくつでも)

女性では、「配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手からの身体的・精神的・性的暴力」(42.6%)が最も多く、「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」(40.9%)が次いで4割台になっている。以下、「売買春(援助交際を含む)」(34.7%)、「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」(21.1%)、「女性のヌード写真などを掲載した雑誌等」(20.1%)が続いている。

一方、男性では「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」(33.2%)が最も多く、以下、「配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手からの身体的・精神的・性的暴力」(28.9%)、「売買春(援助交際を含む)」(26.2%)が2割台となっている。

男女を比較すると、女性の人權が尊重されていないと思うことは、ほとんどの項目で女性の比率が男性を上回り、特に「配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手からの身体的・精神的・性的暴力」で男女差が大きく、女性が14ポイント多くになっている。「特にない」と回答した人は、女性(19.6%)、男性(28.7%)と男性の方が9ポイント多くになっている。

図17-1 女性の人權が尊重されていないと思うこと 項目別一覧(性別)



## 女性の人権が尊重されていないと思うこと

### 【性別】

前頁参照。

### 【地域別】

女性では、「配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手からの身体的・精神的・性的暴力」が能登北部(26.5%)で少なく、「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」は石川中央(43.8%)、能登北部(40.2%)で他の地域と比べ多くなっている。

男性の場合、「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」をあげる人は能登北部(41.7%)で多く、「売買春(援助交際を含む)」は能登北部(11.1%)で他の地域に比べて少なくなっている。

### 【年代別】

女性の場合、「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」が20代(53.3%)、30代(52.2%)で多く、「配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手からの身体的・精神的・性的暴力」も20代(54.7%)、30代(51.3%)で多くあがっている。上記2項目は年令が低いほど多くなる傾向が見られる。一方、「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」は、50代(23.1%)、60歳以上(30.2%)で多く、「女性のヌード写真などを掲載した雑誌等」も同様に50代、60歳以上(ともに28.4%)で多くあがっている。

男性の場合、「売買春(援助交際を含む)」は20代(14.6%)では少なく、60歳以上(33.8%)が多い。また、60歳以上では「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」(25.7%)、「女性のヌード写真などを掲載した雑誌等」(25.3%)も多くあがっている。

### 【未既婚別】

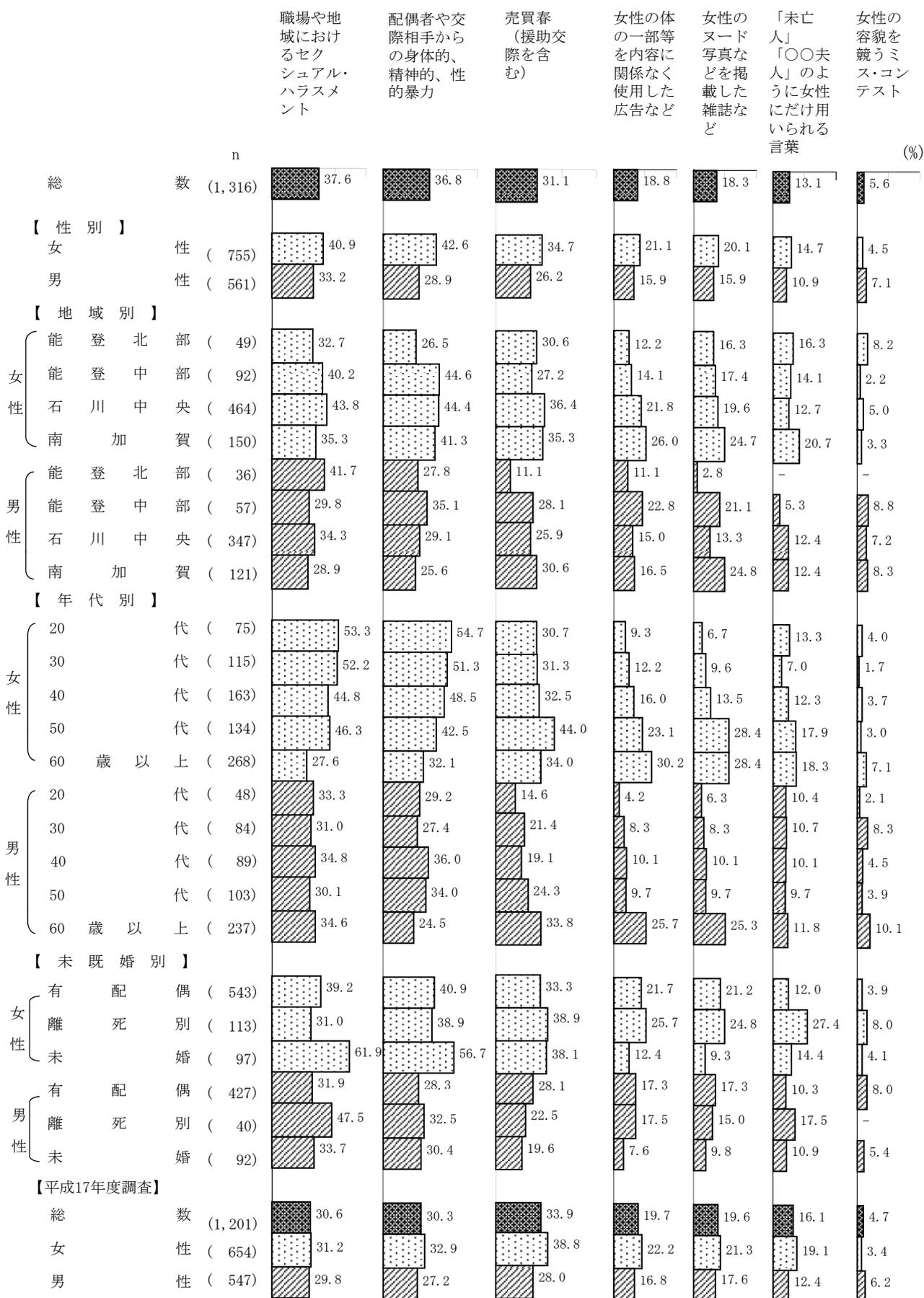
女性では、「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」が未婚者(61.9%)で特に多いほか、「配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手からの身体的・精神的・性的暴力」も未婚者(56.7%)が多い。「女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」「女性のヌード写真などを掲載した雑誌等」は未婚者に比べ、有配偶者、離死別者に多くなっている。『「未亡人」「〇〇夫人」のように女性だけに用いられる言葉』は離死別者(27.4%)が多い。

男性の場合、「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」が離死別者(47.5%)で最も多い。

### 【平成17年度調査との比較】

全体で見ると、「職場や地域におけるセクシュアル・ハラスメント」「配偶者(事実婚や元配偶者を含む)や交際相手からの身体的・精神的・性的暴力」が各7ポイント増加しており、特に女性で増加幅が大きい。

図17-2 女性の人権が尊重されていないと思うこと（性別、地域別、年代別、未既婚別、平成17年度調査結果）



## 2 メディアにおける性・暴力表現

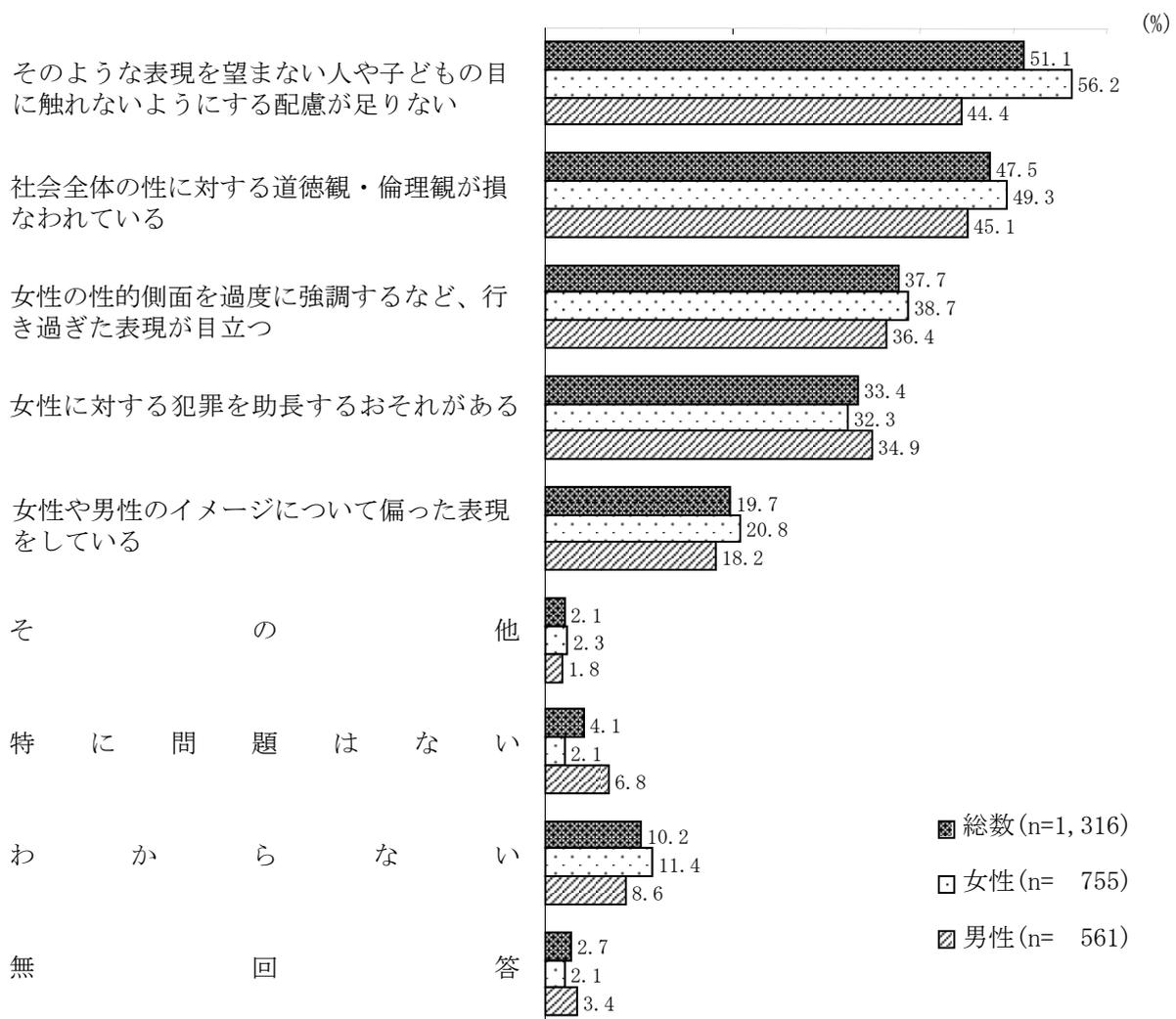
問18 テレビ、新聞、インターネット、コンピューターゲームなどのメディアにおける性・暴力表現について、あなたの考えに近いものすべてをあげてください。(〇はいくつでも)

女性では、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」(56.2%)が最も多く、以下、「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」(49.3%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(38.7%)が続いている。

一方、男性では「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」(45.1%)、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」(44.4%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(36.4%)の順となっている。

「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」は特に男女差が大きく、女性が12ポイント多くなっている。

図18-1 メディアにおける性・暴力表現 項目別一覧(性別)



**【性別】**

前頁参照。

**【年代別】**

女性の場合、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」は50代（67.9%）が多い。「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」は年齢が高いほど多く、50代（59.7%）、60歳以上（63.1%）で6割前後となっている。

男性の場合、「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」は年齢が高いほど多くあがっている。

**【未既婚別】**

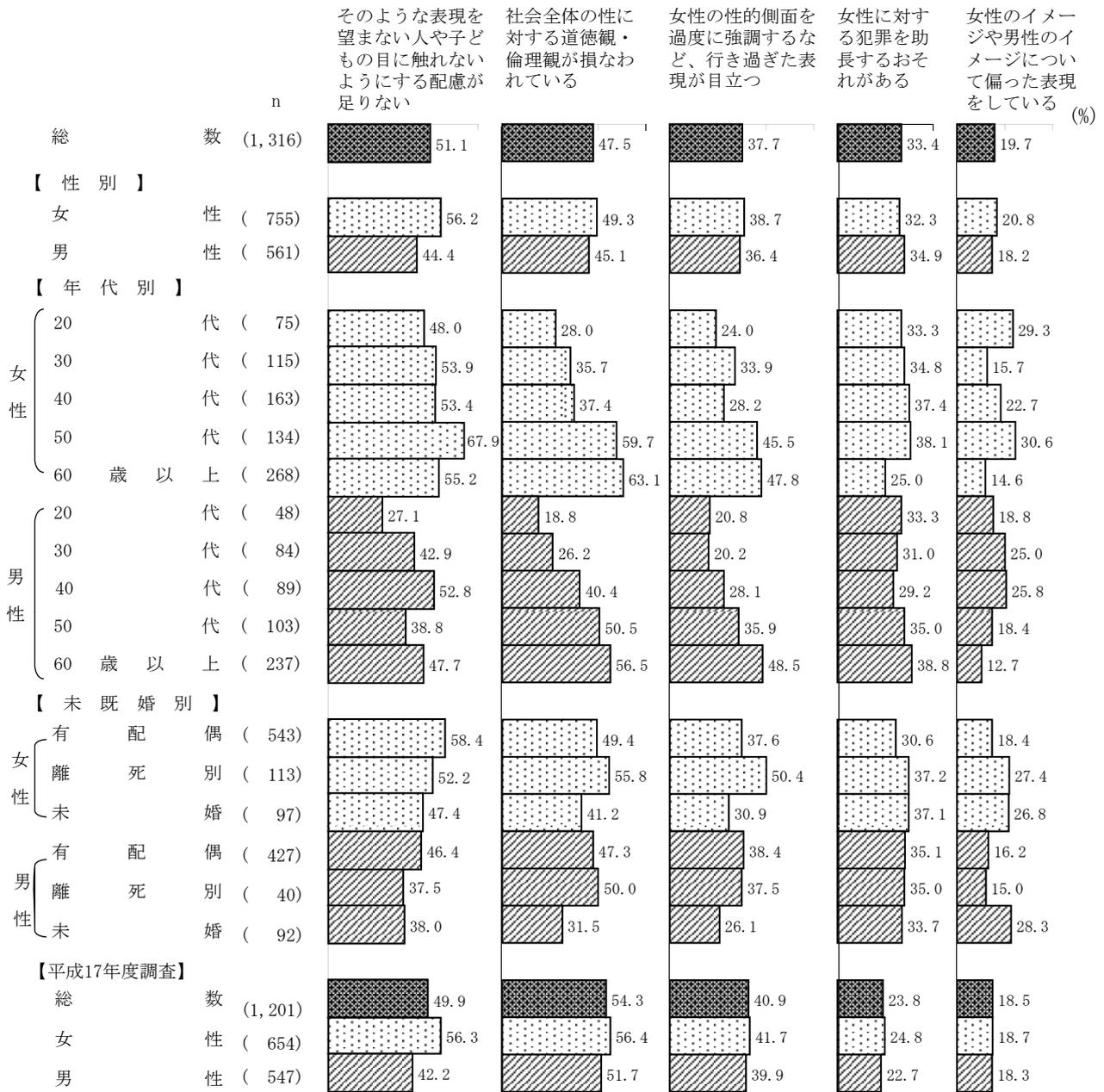
女性では、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないようにする配慮が足りない」は有配偶者（58.4%）で、「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」が離死別者（55.8%）で多く、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（50.4%）も同様である。

男性の場合、「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」が未婚者で少なくなっている。

**【平成17年度調査との比較】**

「社会全体の性に対する道徳観・倫理観が損なわれている」が男女ともに7ポイント減少、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」が女性で8ポイント、男性で12ポイント増加している。

図18-2 メディアにおける性・暴力表現（性別、年代別、未既婚別、平成17年度調査結果）



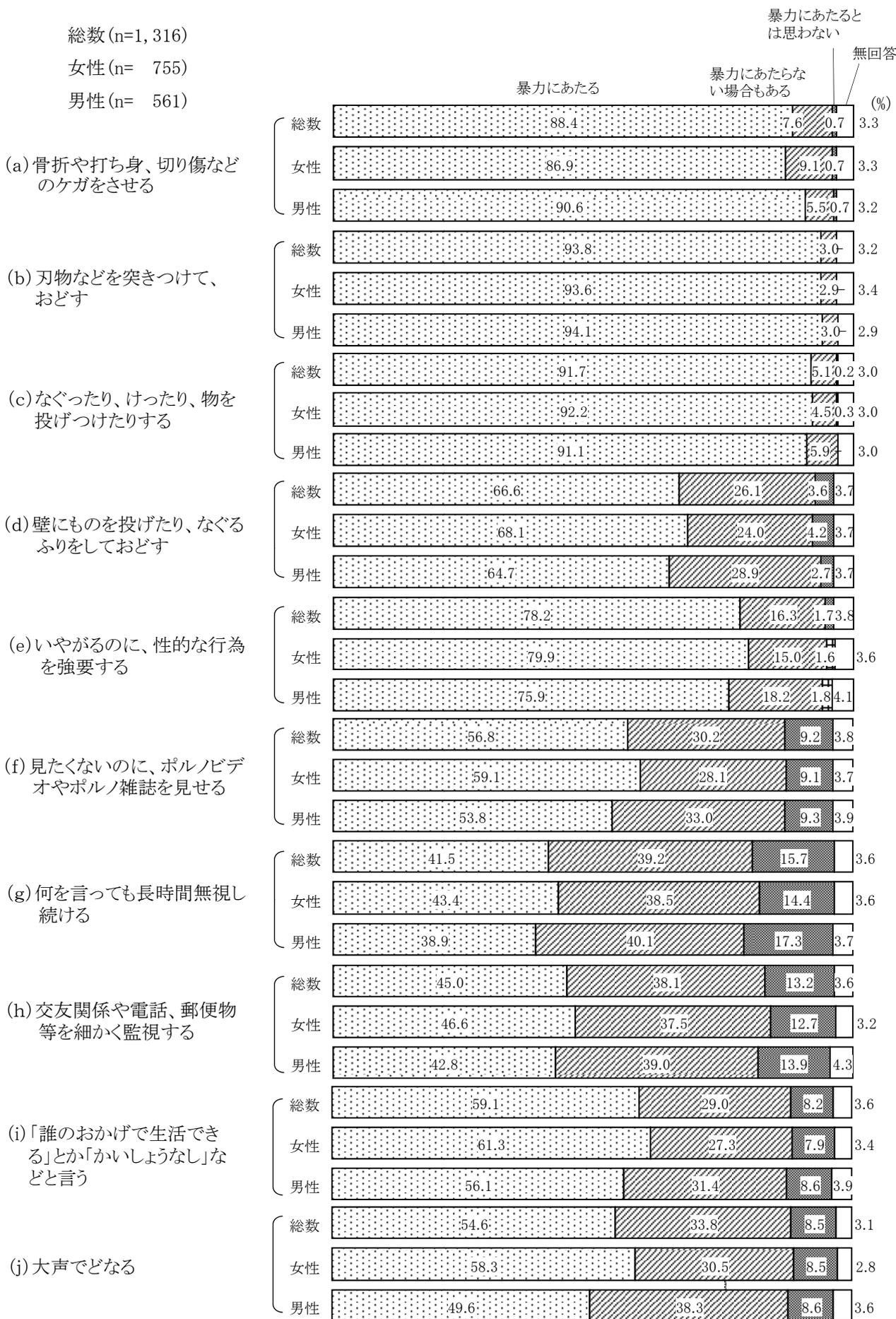
### 3 配偶者からの暴力と認識される行為

問19 次のようなことが交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だ  
と思いますか。 (○はそれぞれ1つずつ)

「暴力にあたる」と思う人が多い順に見ていくと、男女ともに、“(b) 刃物などを突きつけて、おどす”(女性93.6%、男性94.1%)が最も多く、次いで“(c) なぐったり、けったり、物をなげつけたりする”(女性92.2%、男性91.1%)、“(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる”(女性86.9%、男性90.6%)が9割前後で続く。以下、“(e) いやがるのに、性的な行為を強要する”(女性79.9%、男性75.9%)、“(d) 壁に物を投げたり、なぐるふりをしておどす”(女性68.1%、男性64.7%)、“(i) 「誰のおかげで生活できる」とか「かいしようなし」などと言う”(女性61.3%、男性56.1%)の順となっている。

男女を比較すると、“(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる”、“(b) 刃物などを突きつけて、おどす”を除く8項目では、女性の方が「暴力にあたる」と思う人が多くなっている。特に、“(j) 大声でどなる”では女性が9ポイント上回っており、男女差が大きい。

図19-1 配偶者からの暴力と認識される行為 (a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる 項目別一覧 (性別)



配偶者からの暴力と認識される行為

(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる

【性別】

「暴力にあたる」は男性の方が4ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は60歳以上（80.6%）で最も少なく、20代（90.7%）、40代（90.2%）、50代（93.3%）では9割を超えている。

男性でも、20代（93.8%）、40代（94.4%）、50代（94.2%）で9割を超えている。

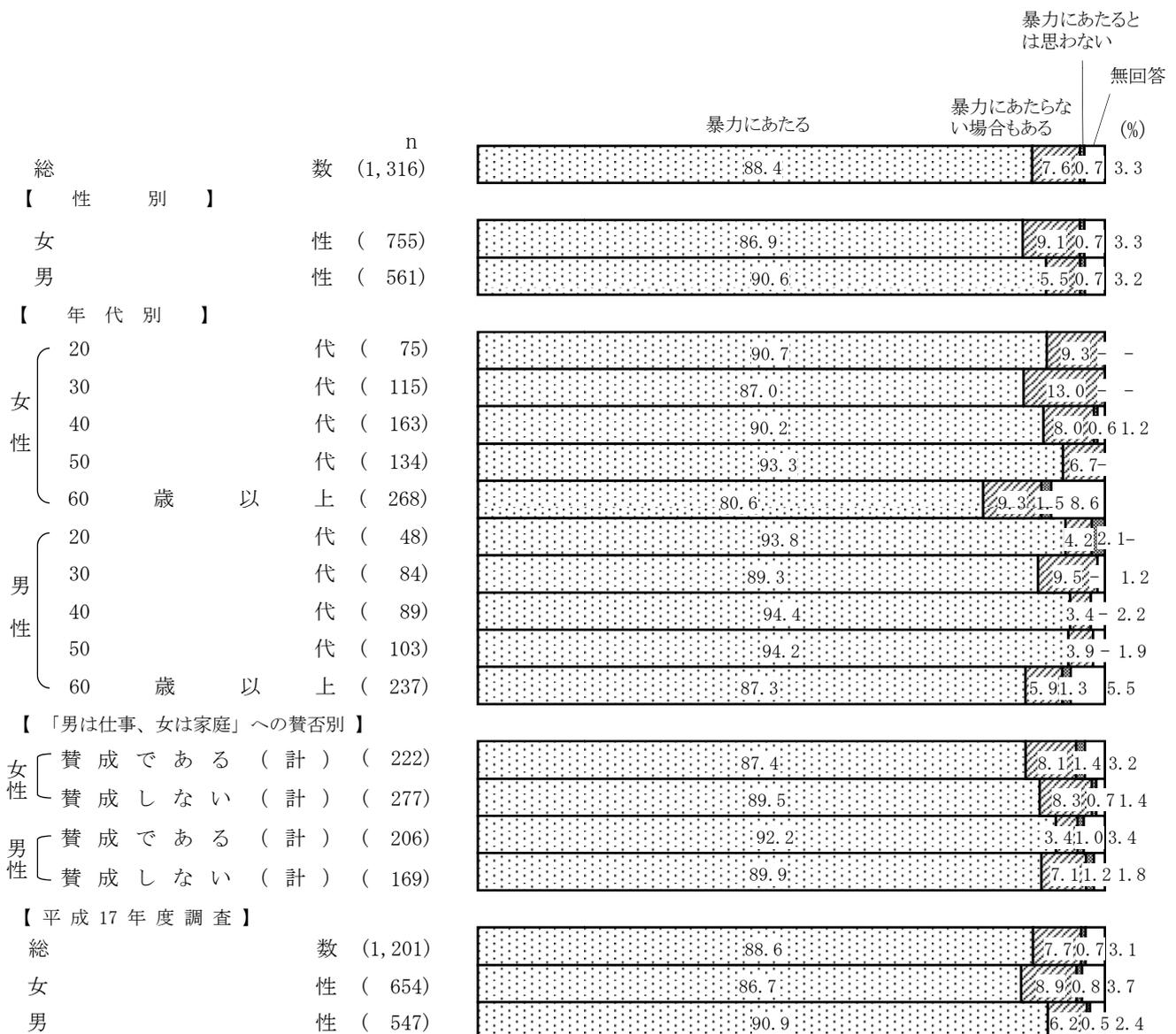
【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

男女とも大きな比率の差は見られない。

【平成17年度調査との比較】

男女とも変化は見られない。

図19-2 配偶者からの暴力と認識される行為 (a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる  
(性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果)



配偶者からの暴力と認識される行為

(b) 刃物などを突きつけて、おどす

【性別】

大きな差は見られない。

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は60歳以上（85.4%）で特に少なく、他の年代では9割強となっている。  
男性では、「暴力にあたる」は全ての年代で9割を超えている。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

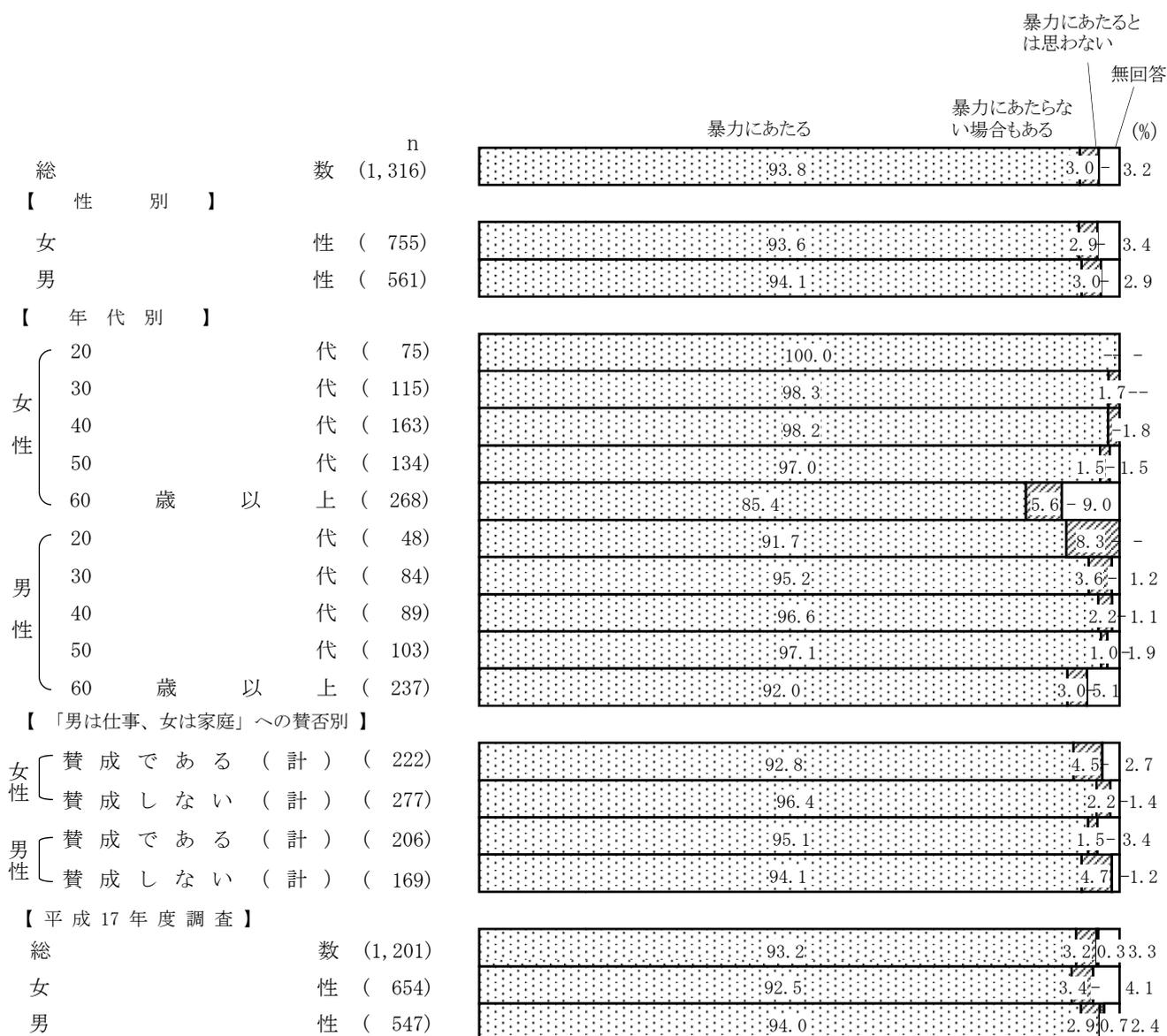
男女とも、「暴力にあたる」が9割を超えている。

【平成17年度調査との比較】

男女とも変化は見られない。

図19-3 配偶者からの暴力と認識される行為 (b) 刃物などを突きつけて、おどす

(性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果)



配偶者からの暴力と認識される行為

(c) ながったり、けったり、物を投げつけたりする

【性別】

大きな差は見られない。

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は60歳以上（86.9%）のみ8割台であるが、他の年代では9割以上となっており、20代（97.3%）が最も多い。

男性では、「暴力にあたる」は50代（94.2%）で最も多くなっている。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

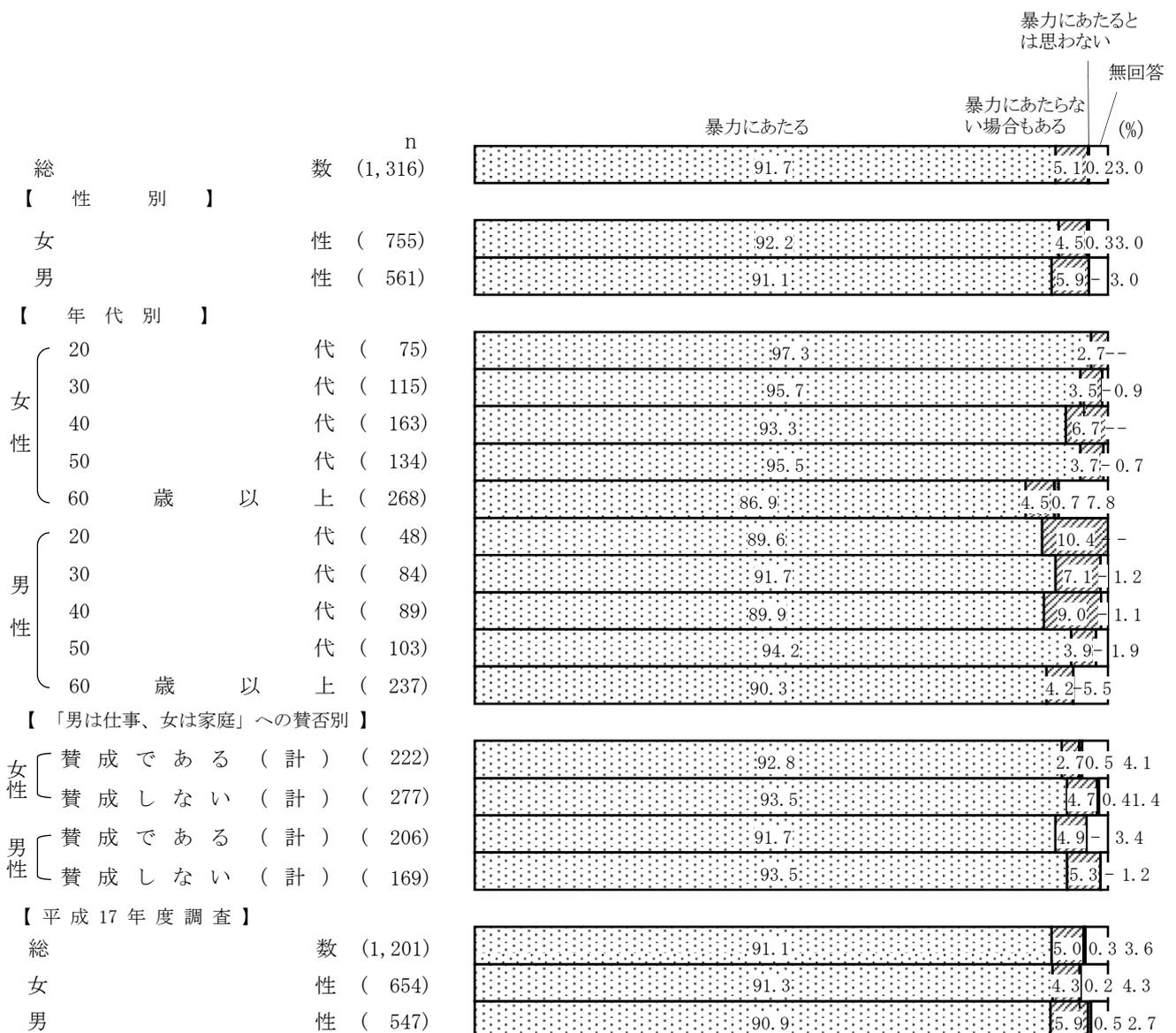
男女とも、「暴力にあたる」は9割を超え、大きな差は見られない。

【平成17年度調査との比較】

男女とも変化は見られない。

図19-4 配偶者からの暴力と認識される行為（c）ながったり、けったり、物を投げつけたりする

（性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果）



配偶者からの暴力と認識される行為

(d) 壁にもものを投げたり、なぐるふりをしておどす

【性別】

「暴力にあたらない場合もある」は男性の方が5ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は60歳以上（53.4%）では5割強となっており、「暴力にあたるとは思わない」とする人が9.3%となっている。

男性では、「暴力にあたる」は30代（73.8%）、40代（78.7%）で多く、60歳以上（55.3%）で少ない。

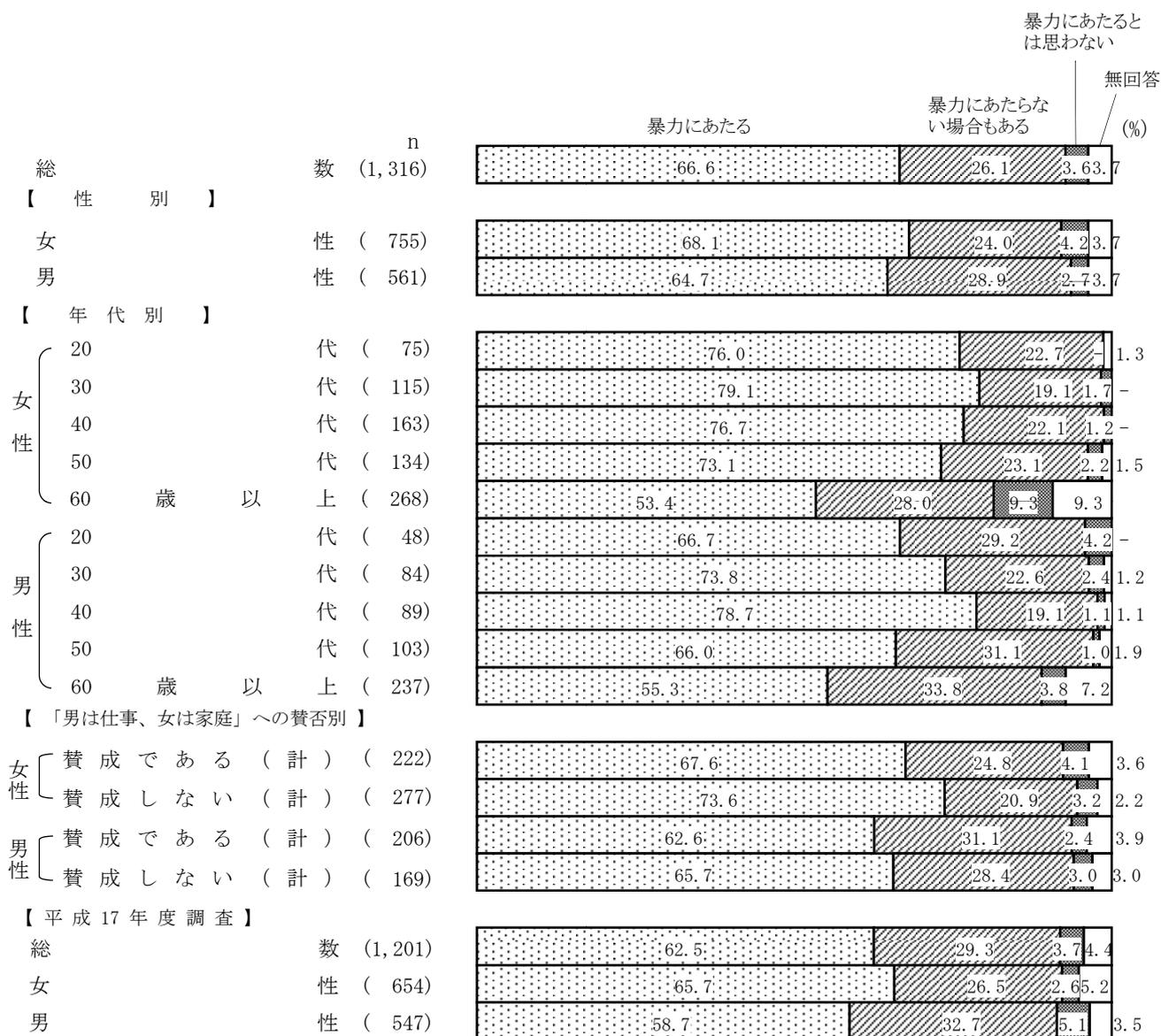
【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

男女とも、「暴力にあたる」は、性的役割分担に賛成する人（女性67.6%、男性62.6%）に比べ、賛成しない人（女性73.6%、男性65.7%）で多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

男性で、「暴力にあたる」が6ポイント増加している。

図19-5 配偶者からの暴力と認識される行為（d）壁にもものを投げたり、なぐるふりをしておどす  
（性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果）



配偶者からの暴力と認識される行為

(e) いやがるのに、性的な行為を強要する

【性別】

「暴力にあたる」は女性の方が4ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は40代以下の若い層で多いが、60歳以上（67.2%）で少ない。

男性では、「暴力にあたる」は30代（88.1%）が最も多く、60歳以上（65.8%）で少ない。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

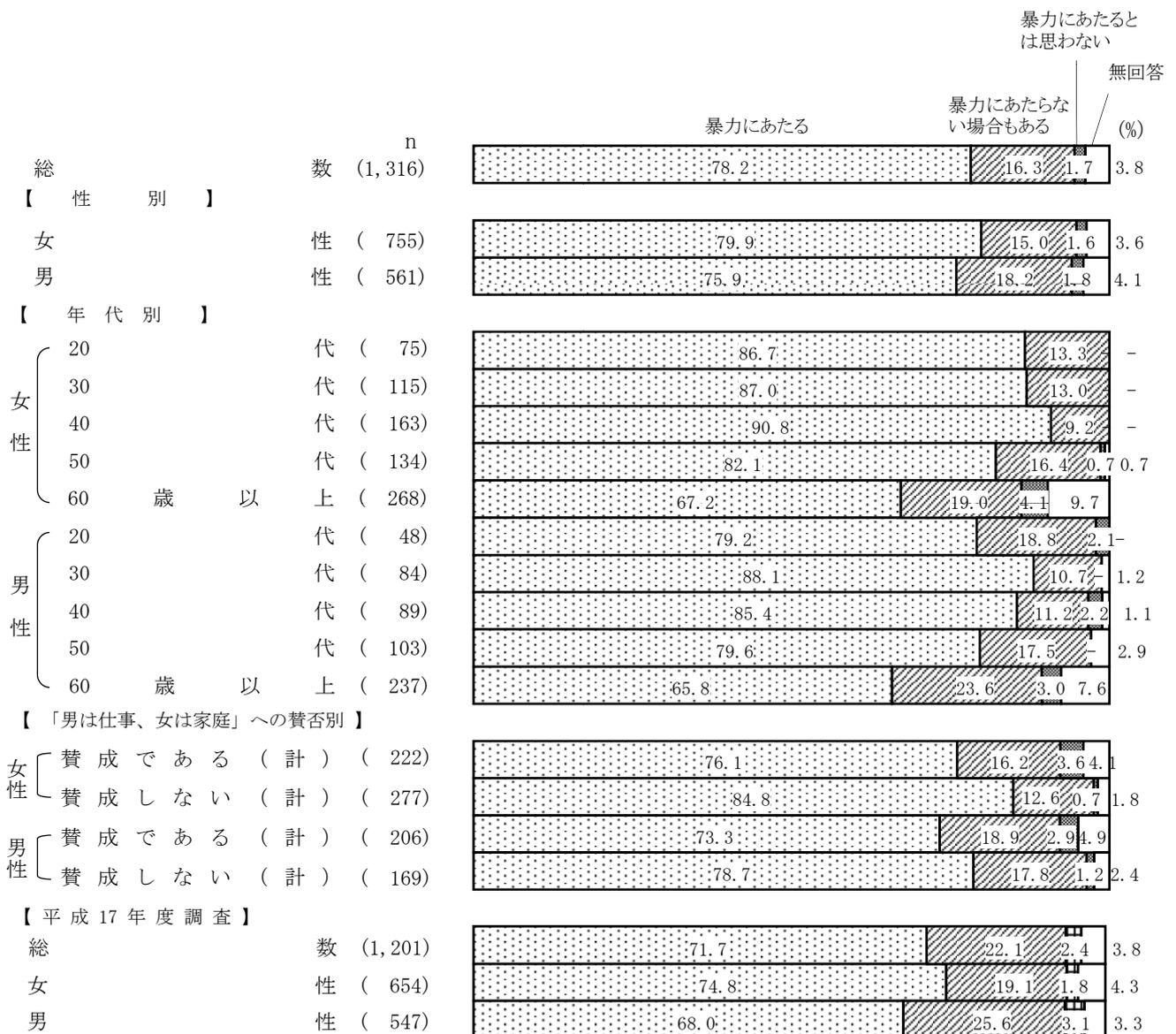
男女とも、「暴力にあたる」は、性的役割分担に賛成する人（女性76.1%、男性73.3%）に比べ、賛成しない人（女性84.8%、男性78.7%）で多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

「暴力にあたる」は、女性では5ポイント、男性で8ポイント増加している。

図19-6 配偶者からの暴力と認識される行為（e）いやがるのに、性的な行為を強要する

（性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果）



配偶者からの暴力と認識される行為

(f) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

【性別】

「暴力にあたらな場合もある」は男性の方が5ポイント多くなっている。

【年代別】

女性の場合、「暴力にあたる」は40代（66.3%）、30代（64.3%）で多く、60歳以上（51.5%）でも少ない。

男性では、「暴力にあたる」は20代（43.8%）と60歳以上（43.0%）で少なく、40代、50代は7割に近い。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

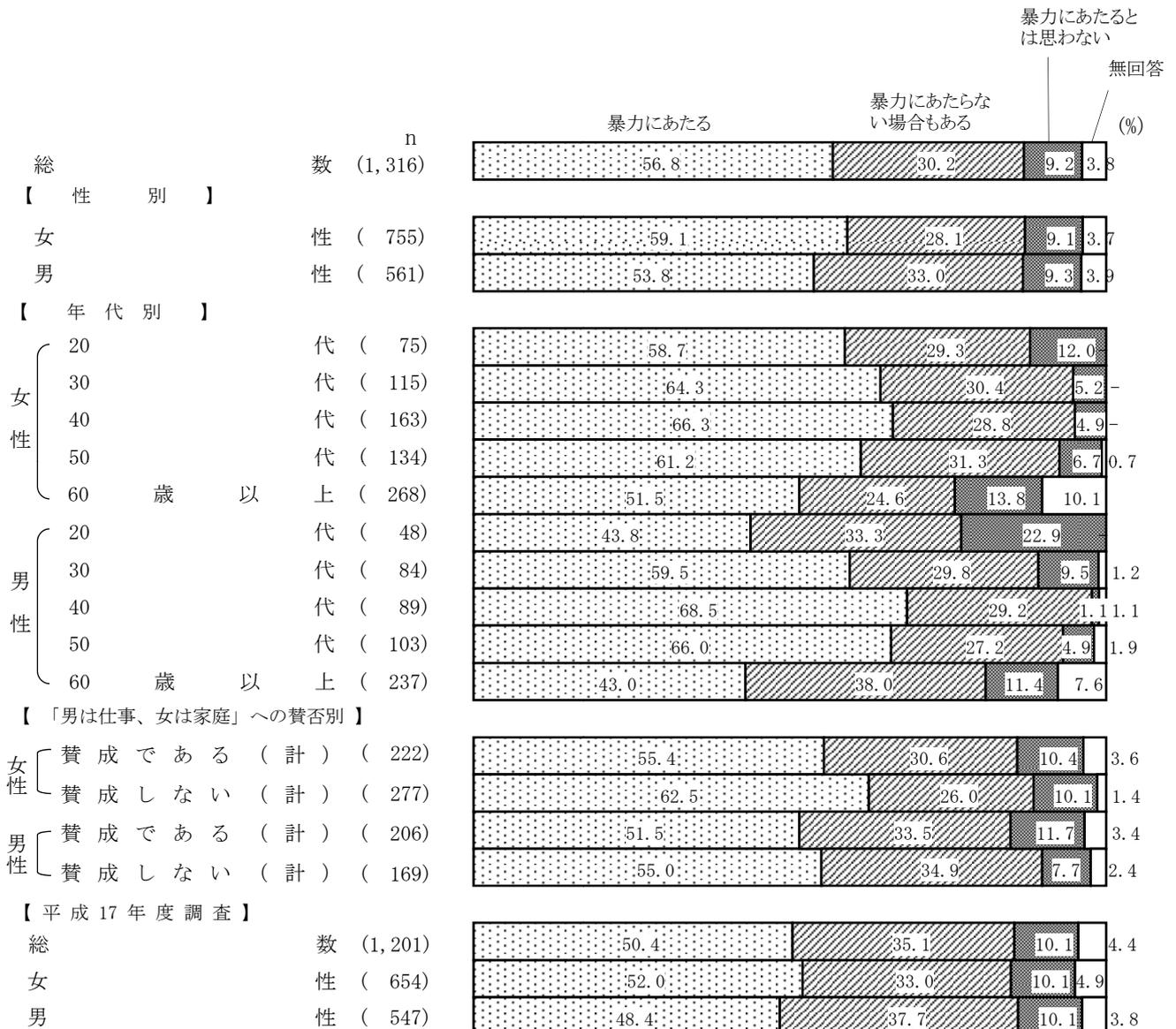
男女とも、「暴力にあたる」は、性的役割分担に賛成する人（女性55.4%、男性51.5%）に比べ、賛成しない人（女性62.5%、男性55.0%）に多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

全体では「暴力にあたる」は6ポイント増加し、女性で7ポイント、男性で5ポイント増加している。

図19-7 配偶者からの暴力と認識される行為（f）見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

（性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果）



配偶者からの暴力と認識される行為  
 (g) 何を言っても長時間無視し続ける

【性別】

「暴力にあたる」は女性の方が5ポイント多くなっている。

【年代別】

女性の場合、「暴力にあたる」は40代（55.8%）、50代（50.0%）で多くなっているが、20代（36.0%）、60歳以上（32.8%）では3割台にとどまっている。

男性の場合も、「暴力にあたる」は20代（33.3%）と60歳以上（30.4%）で少なく、特に60歳以上では「暴力にあたらぬ場合もある」（43.5%）の方が多くなっている。20代では「暴力にあたるとは思わない」（37.5%）が「暴力にあたる」（32.8%）を上回っている。

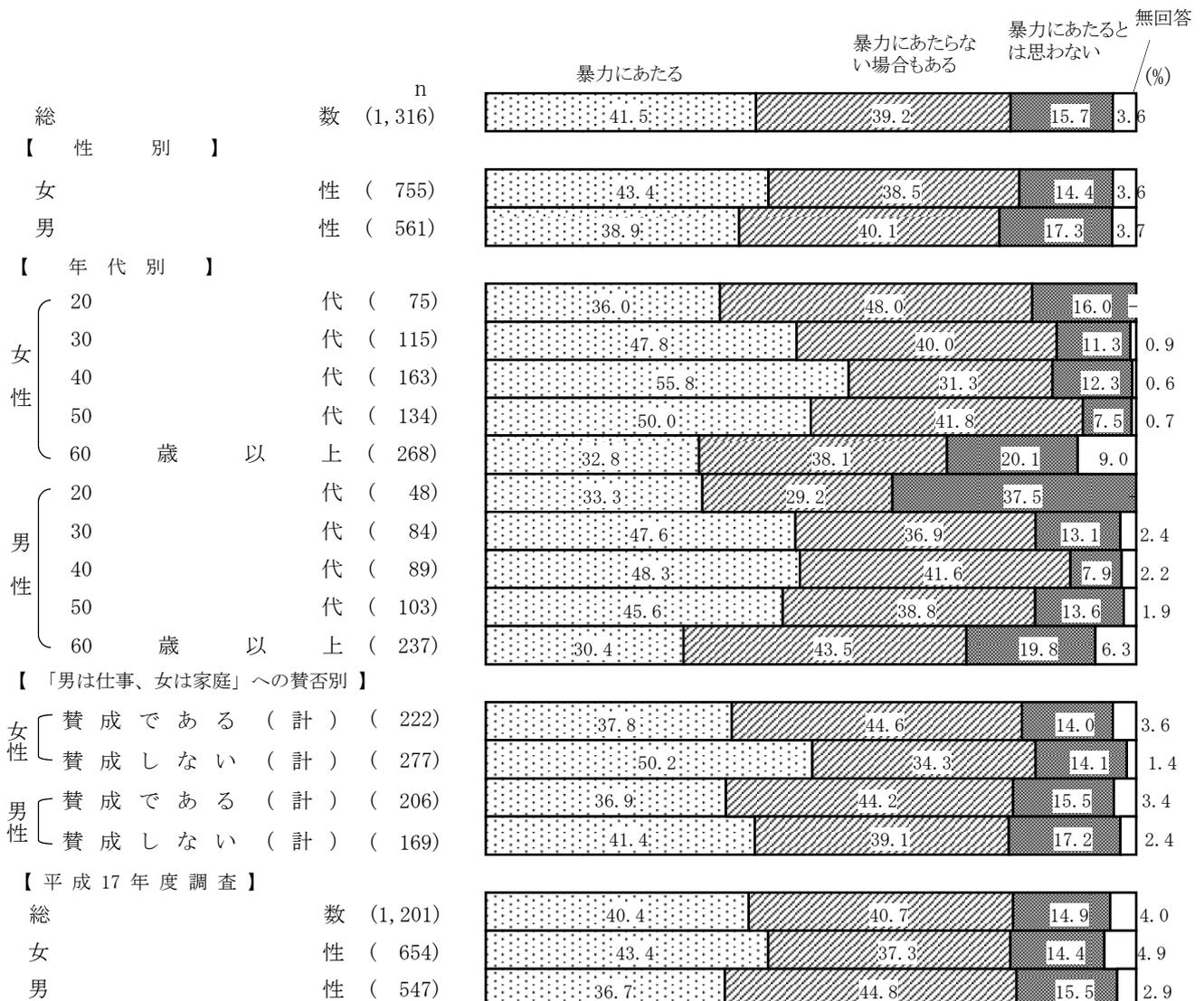
【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

男女とも、「暴力にあたる」は、性的役割分担に賛成する人（女性37.8%、男性36.9%）に比べ、賛成しない人（女性50.2%、男性41.4%）に多く、特に女性で差が大きい。

【平成17年度調査との比較】

大きな比率の変化は見られないが、男性で「暴力にあたらぬ場合もある」が5ポイント減少している。

図19-8 配偶者からの暴力と認識される行為（g）何を言っても長時間無視し続ける  
 （年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果）



配偶者からの暴力と認識される行為

(h) 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する

【性別】

大きな差は見られない。

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は40代(58.9%)、50代(56.7%)で多くなっているが、20代(40.0%)、60歳以上(35.8%)では少なく、この年代では「暴力にあたらぬ場合もある」が「暴力にあたる」を上回っている。

男性の場合も、「暴力にあたる」は20代(41.7%)と60歳以上(36.3%)で少なく、60歳以上では「暴力にあたらぬ場合もある」の比率が「暴力にあたる」を上回っている。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

男女とも、「暴力にあたる」は、性的役割分担に賛成する人(女性41.0%、男性39.3%)に比べ、賛成しない人(女性52.7%、男性43.8%)で多くなっており、特に女性で差が大きい。

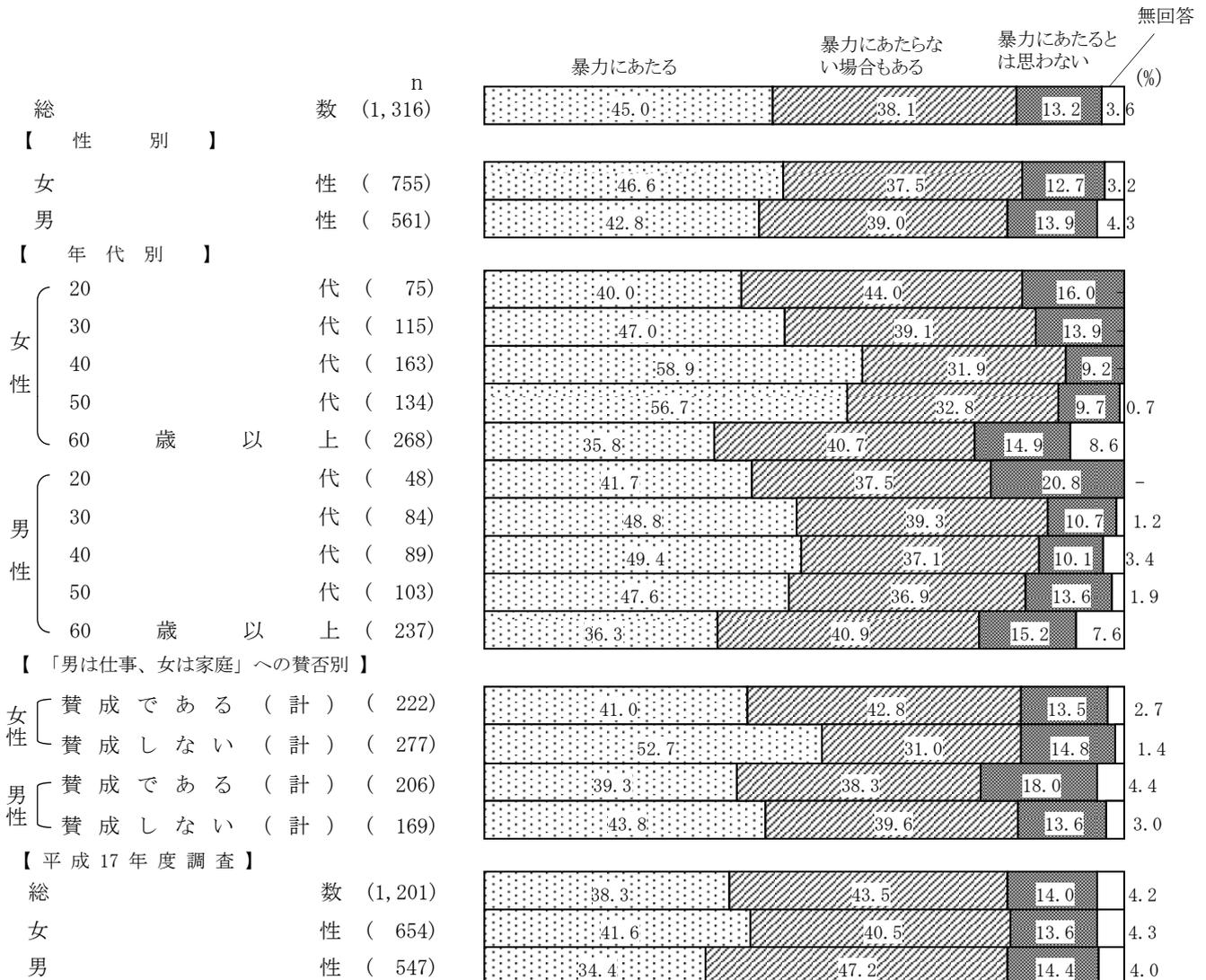
【平成17年度調査との比較】

女性では、「暴力にあたる」が5ポイント増加し、「暴力にあたらぬ場合もある」が3ポイント減少している。

男性では、「暴力にあたる」が8ポイント増加し、「暴力にあたらぬ場合もある」が8ポイント減少している。

図19-9 配偶者からの暴力と認識される行為 (h) 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する

(性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果)



配偶者からの暴力と認識される行為

(i) 「誰のおかげで生活できる」とか「かいしょうなし」などと言う

【性別】

「暴力にあたる」は女性の方が5ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は40代（69.3%）、50代（70.9%）で多く、60歳以上（50.7%）で少ない。  
男性では、「暴力にあたる」は30代（66.7%）と50代（64.1%）で多く、60歳以上（47.7%）で少ない。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

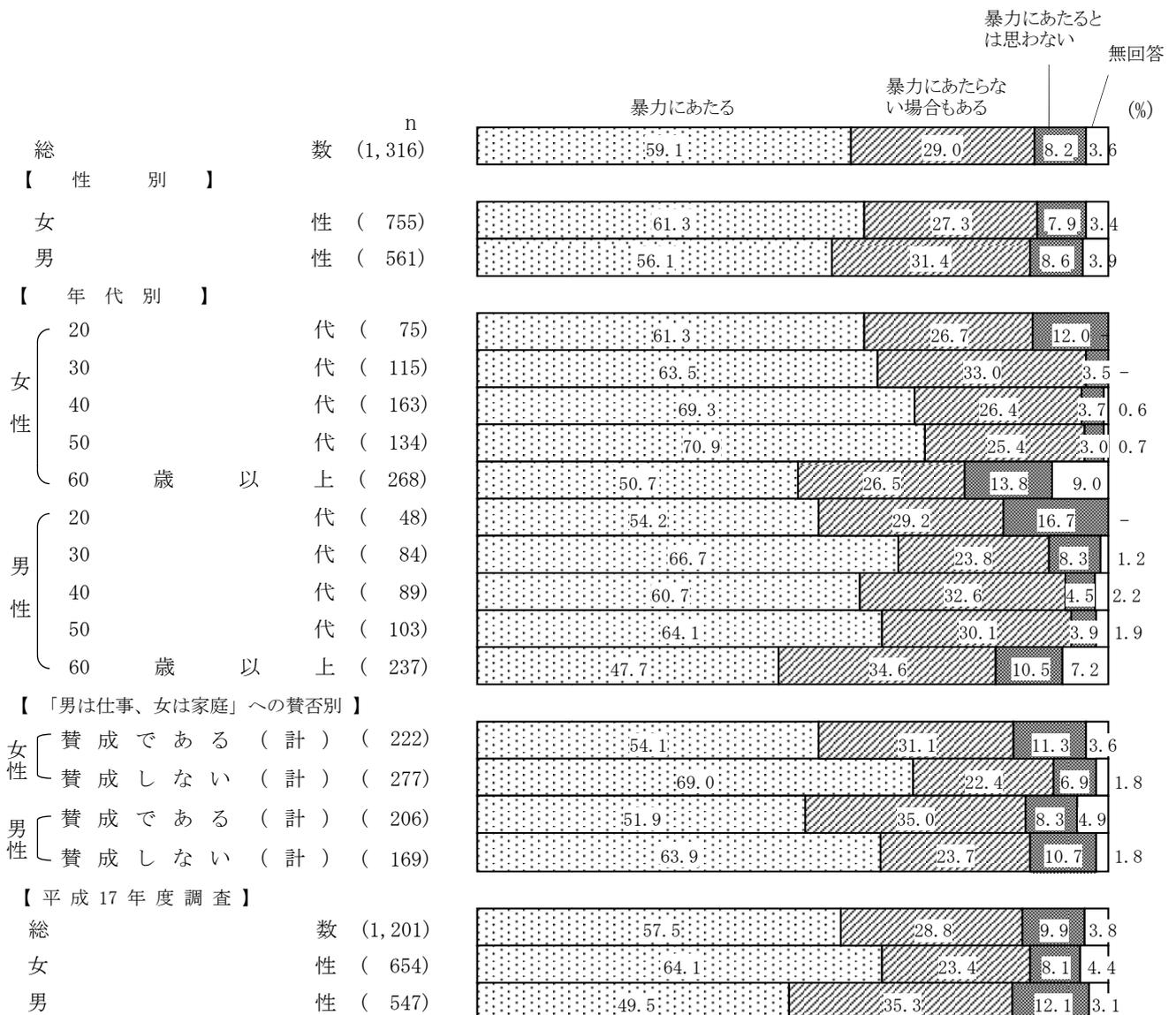
男女とも、「暴力にあたる」は、性的役割分担に賛成する人（女性54.1%、男性51.9%）に比べ、賛成しない人（女性69.0%、男性63.9%）に多くなっており、他の9項目と比べ差が大きい。

【平成17年度調査との比較】

「暴力にあたる」は、女性では3ポイント減少しているが、男性は7ポイント増加している。

「暴力にあたらない場合もある」は、女性では4ポイント増加しているが、男性は4ポイント減少している。

図19-10 配偶者からの暴力と認識される行為 (i) 「誰のおかげで生活できる」とか「かいしょうなし」などと言う  
(性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果)



配偶者からの暴力と認識される行為

(j) 大声でどなる

【性別】

「暴力にあたる」は女性の方が9ポイント多くなっている。

【年代別】

女性の場合、「暴力にあたる」は20代（66.7%）、50代（67.9%）で多くなっているが、60歳以上（49.3%）では少なく、また、60歳以上では「暴力にあたると思わない」（13.8%）の比率が1割を超えている。

男性では、60歳以上で「暴力にあたる」（40.9%）が特に少なく、「暴力にあたらぬ場合もある」（40.5%）とほぼ同じ比率となっている。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

男女とも、「暴力にあたる」は、性的役割分担に賛成する人（女性54.1%、男性48.5%）に比べ、賛成しない人（女性65.7%、男性56.2%）の方が多くなっている。

【平成17年度調査との比較】

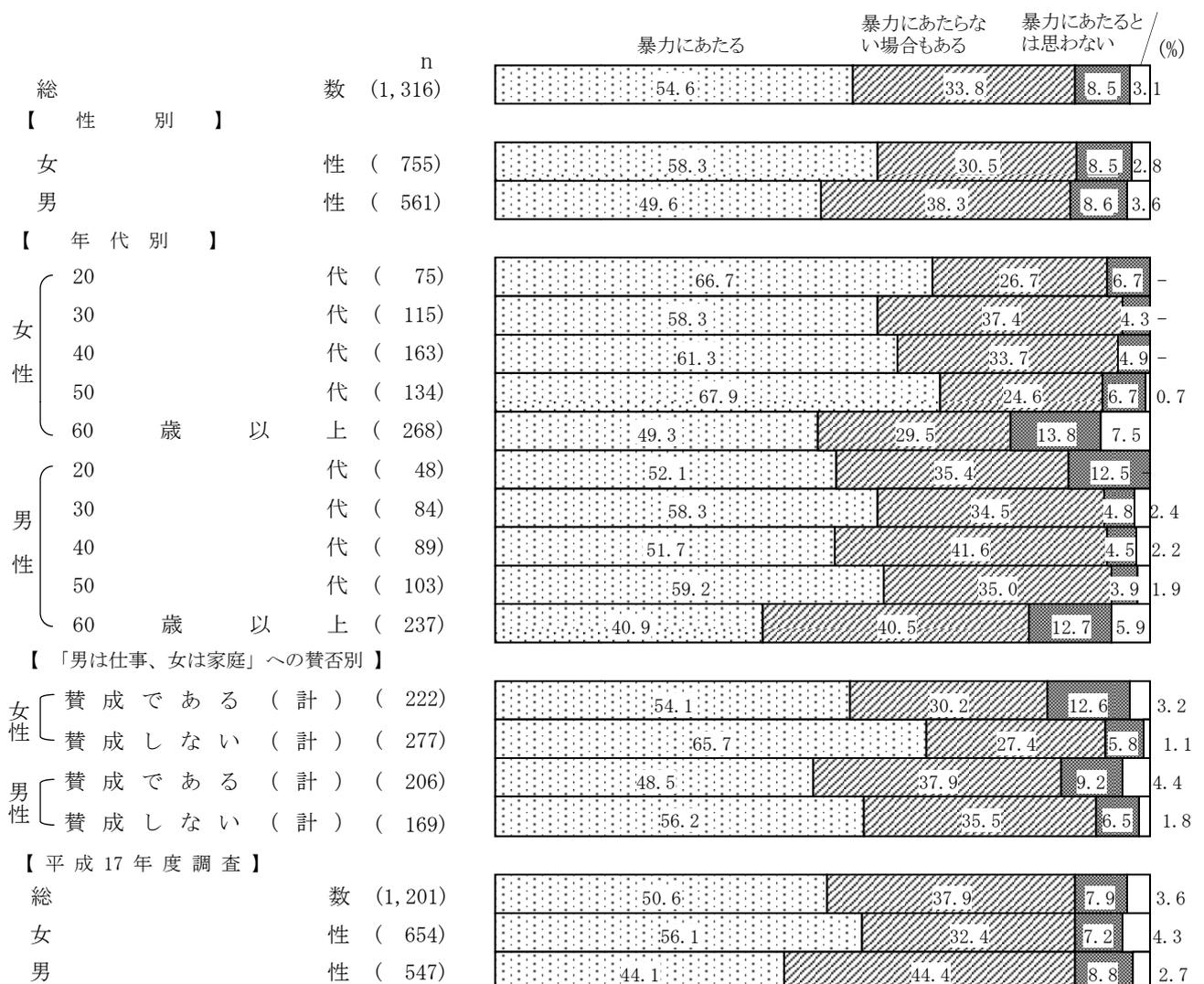
女性は大きな変化は見られない。

男性は、「暴力にあたる」が6ポイント増加し、「暴力にあたらぬ場合もある」が6ポイント減少している。

図19-11 配偶者からの暴力と認識される行為（j）大声でどなる

（性別、年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別、平成17年度調査結果）

無回答



#### 4 配偶者からの被害経験の有無

(これまでに結婚したことがある人に)

【ここでの結婚は婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦を含む】

問20 あなたは、これまでに配偶者から次のようなことをされたことがありますか。次のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。(それぞれ○は1つだけ)

“(a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。”では、「何度もあった」(女性5.8%、男性2.1%)「1、2度あった」(女性21.5%、男性12.8%)を合わせて見ると、女性が男性を12ポイント上回っている。

“(b) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。”では、「何度もあった」は女性(7.3%)が男性(1.9%)よりも5ポイント多く、「1、2度あった」(女性10.4%、男性9.4%)ではあまり差は見られない。

“(c) いやがっているのに性的な行為を強要された。”は、「何度もあった」(女性5.5%、男性0.4%)「1、2度あった」(女性11.9%、男性3.2%)を合わせて見ると、女性が男性を14ポイント上回っている。

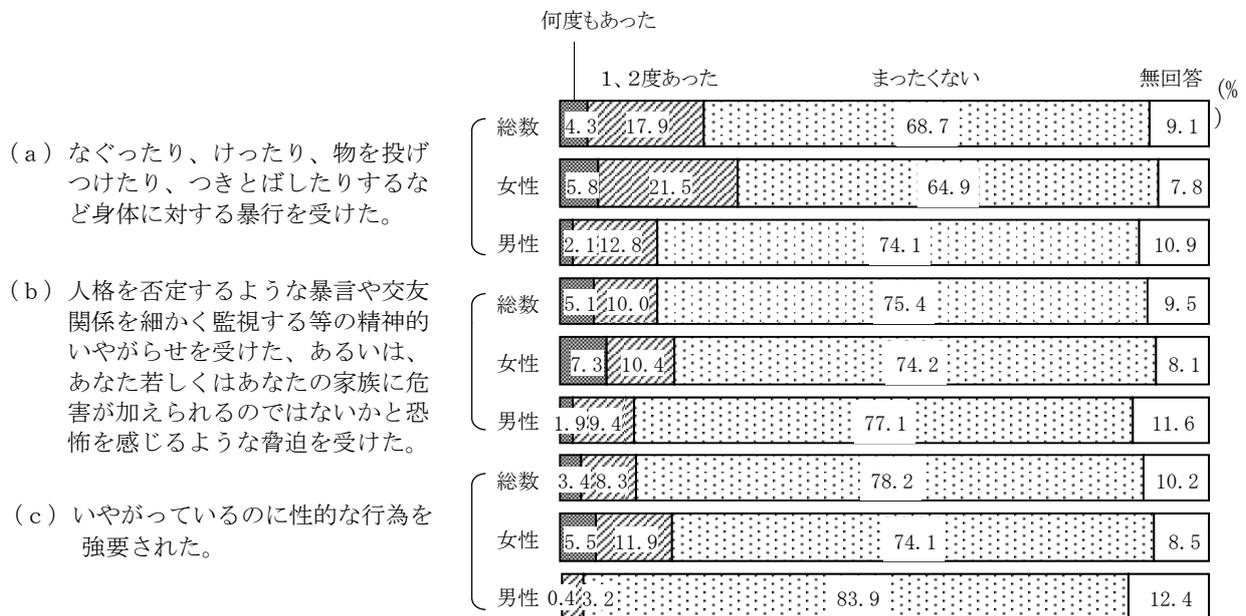
3項目全てで、「何度もあった」と「1、2度あった」は女性の方が男性より比率が高くなっている。

図20-1 配偶者からの被害経験の有無 項目別一覧(性別)

総数(n=1,123)

女性(n= 656)

男性(n= 467)



配偶者からの被害経験の有無

(a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。

【性別】

図20-1解説参照。

【年代別】

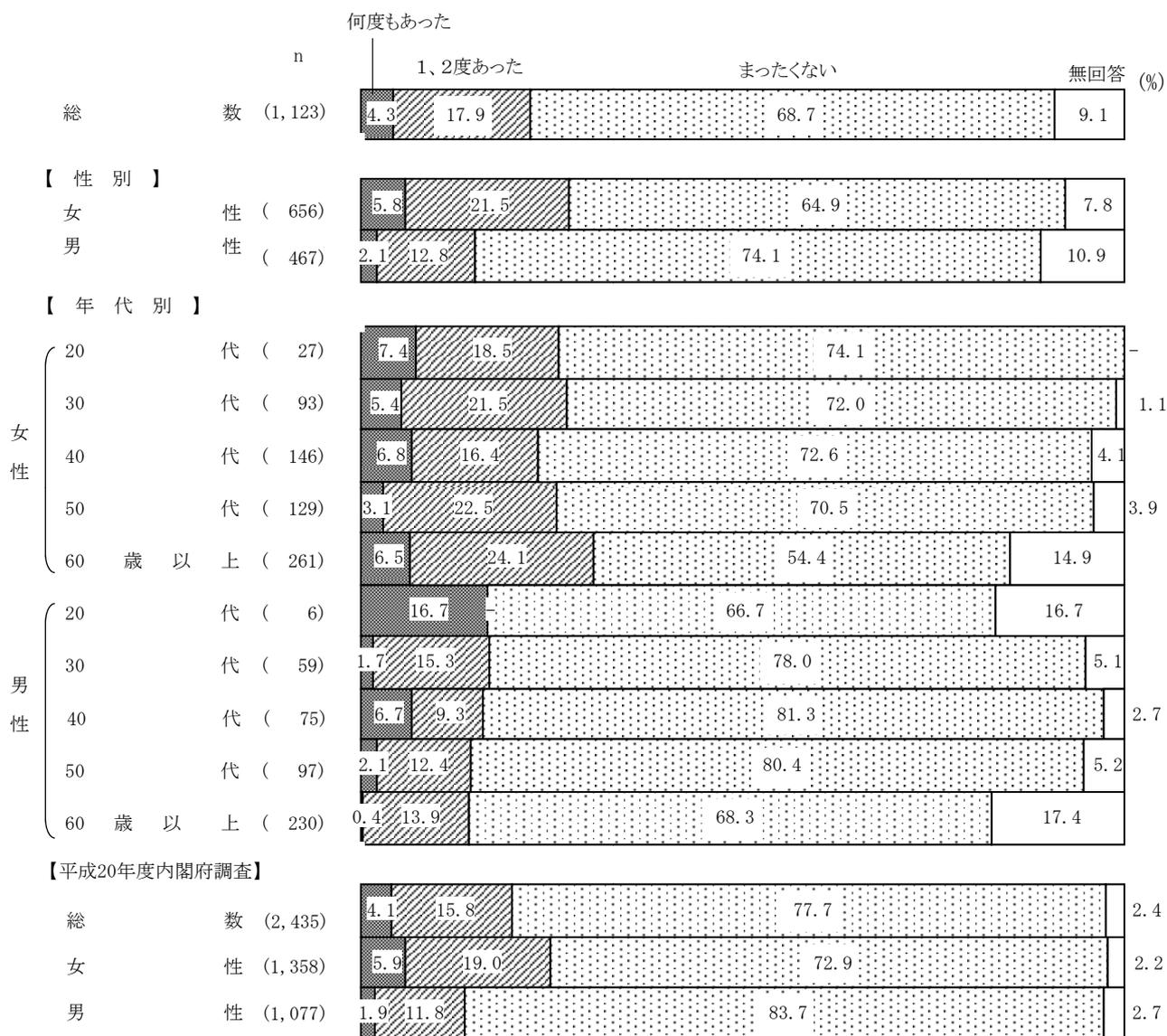
女性では、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、60歳以上（「何どもあった」6.5%、「1、2度あった」24.1%）が他の年代と比べて多い。

男性では、「何どもあった」は20代（16.7%）で特に多い。

【平成20年度内閣府調査との比較】

内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をすると、男女ともに内閣府調査との差はみられない。

図20-2 配偶者からの被害経験の有無 (a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。  
(性別、地域別、年代別、平成20年度内閣府調査結果)



配偶者からの被害経験の有無

(b) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。

【性別】

図20-1解説参照。

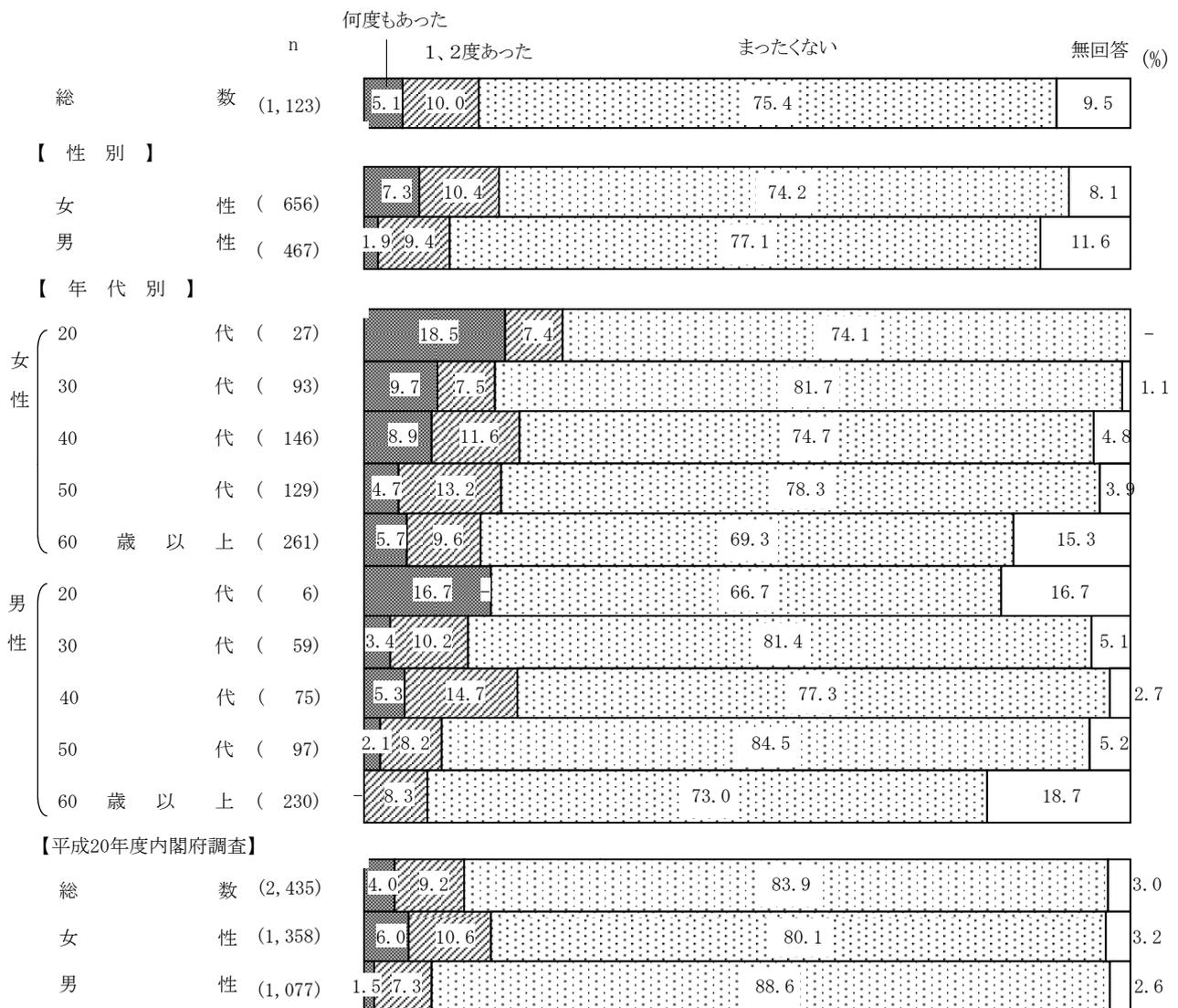
【年代別】

女性では、「何度もあった」は20代（18.5%）で他の世代と比べて最も多く、2割近くを占めている。男性でも、「何度もあった」は20代（16.7%）が多い。「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、40代（「何度もあった」5.3%、「1、2度あった」14.7%）が他の年代と比べて多い。

【平成20年度内閣府調査との比較】

内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較すると、男女ともに内閣府調査との差はみられない。

図20-3 配偶者からの被害経験の有無（b）人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。  
（性別、地域別、年代別、平成20年度内閣府調査結果）



配偶者からの被害経験の有無

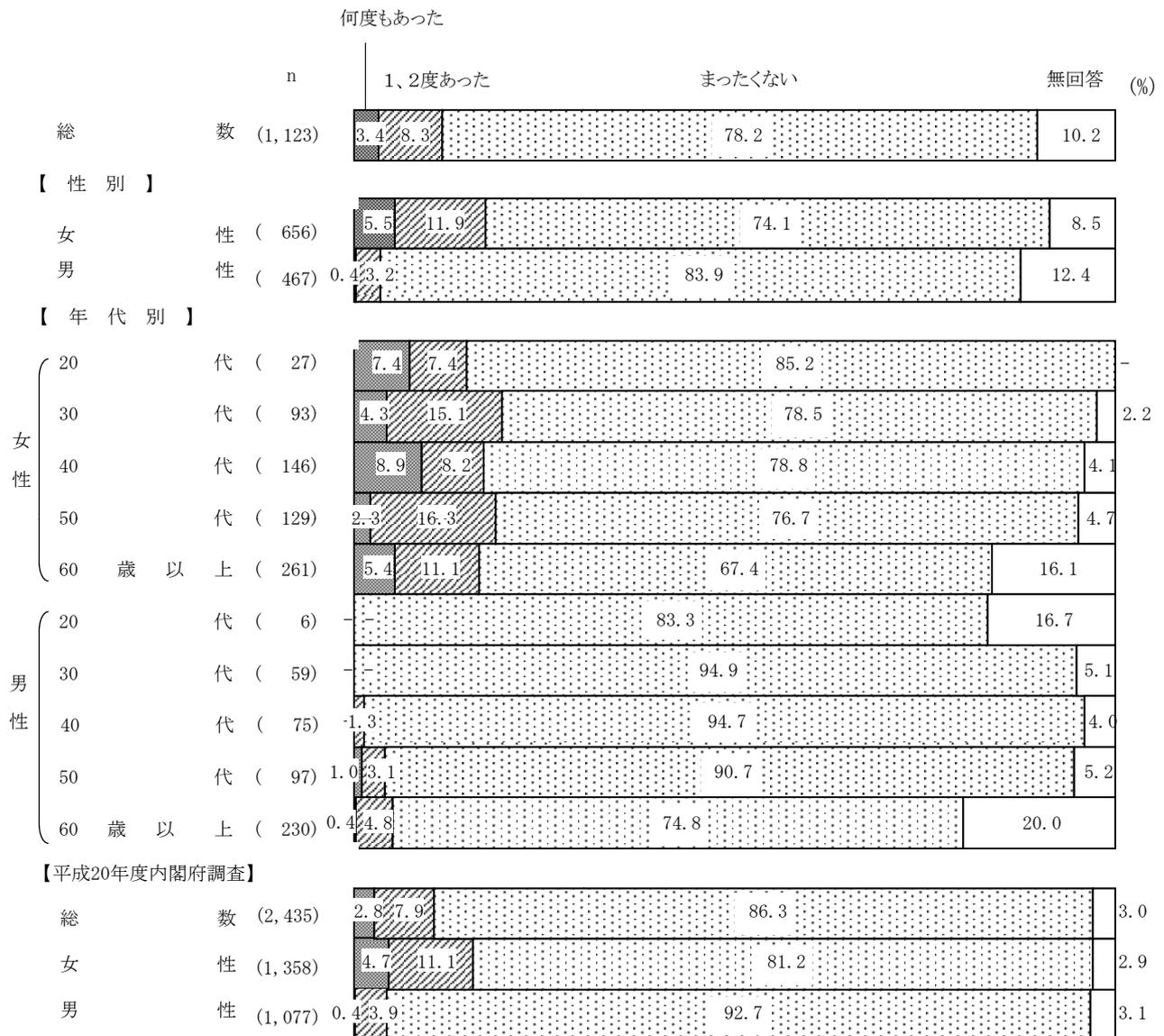
(c) いやがっているのに性的な行為を強要された。

**【性別】**  
図20-1解説参照。

**【年代別】**  
女性では、「何度もあった」は40代(8.9%)と20代(7.4%)で最も多い。「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、30代(「何度もあった」4.3%、「1、2度あった」15.1%)と50代(「何どもあった」2.3%、「1、2度あった」16.3%)が他の年代と比べて多い。  
男性では、20代、30代で「何どもあった」「1、2度あった」と答えた人はおらず、40代からは、年代が上がるごとに比率が少しずつだが高くなっている。

**【平成20年度内閣府調査との比較】**  
内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をすると、男女ともに内閣府調査との差はみられない。

図20-4 配偶者からの被害経験の有無 (c) いやがっているのに性的な行為を強要された。  
(性別、地域別、年代別、平成20年度内閣府調査結果)



配偶者からの被害経験の有無・まとめ 平成20年度内閣府調査との比較

(内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をする。)

【性別】

女性では、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせて見ると、男女とも平成20年度内閣府調査よりも今回調査が1ポイント強多くなっている。

【年代別】

女性では、『あった(計)』は20代、40代では内閣府調査(20代32.7%、40代38.3%)の方が今回調査(20代29.6%、40代30.8%)より多く、それ以外の年代では今回調査の方が多くなっている。『あった(計)』の比率の差が最も大きかったのは40代で、内閣府調査の方が7ポイント高くなっている。

男性では、『あった(計)』は40代、60歳以上では今回調査(40代21.3%、60歳以上18.3%)の方が内閣府調査(40代17.6%、60歳以上15.0%)より多く、それ以外の年代では内閣府調査の方が高くなっている。

図20-5 配偶者からの被害経験の有無 平成20年度内閣府調査との比較(性別)

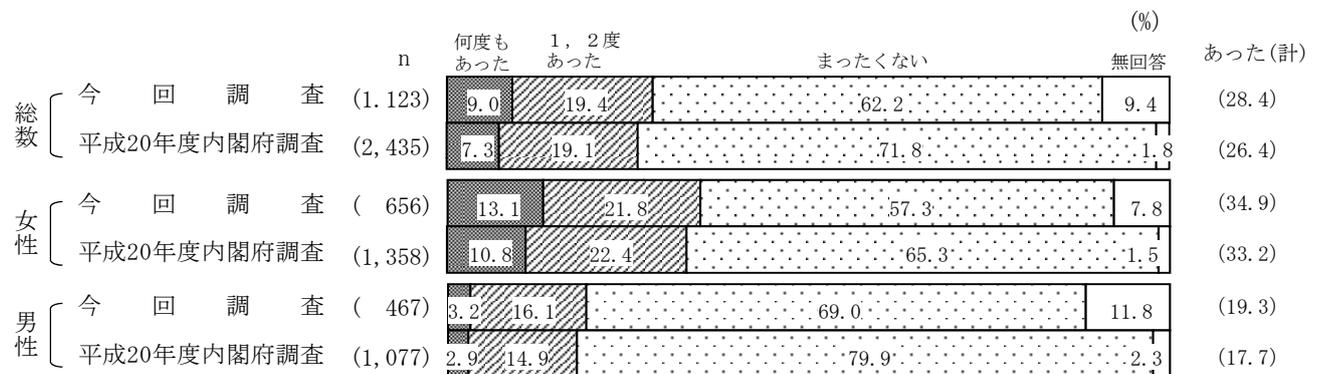
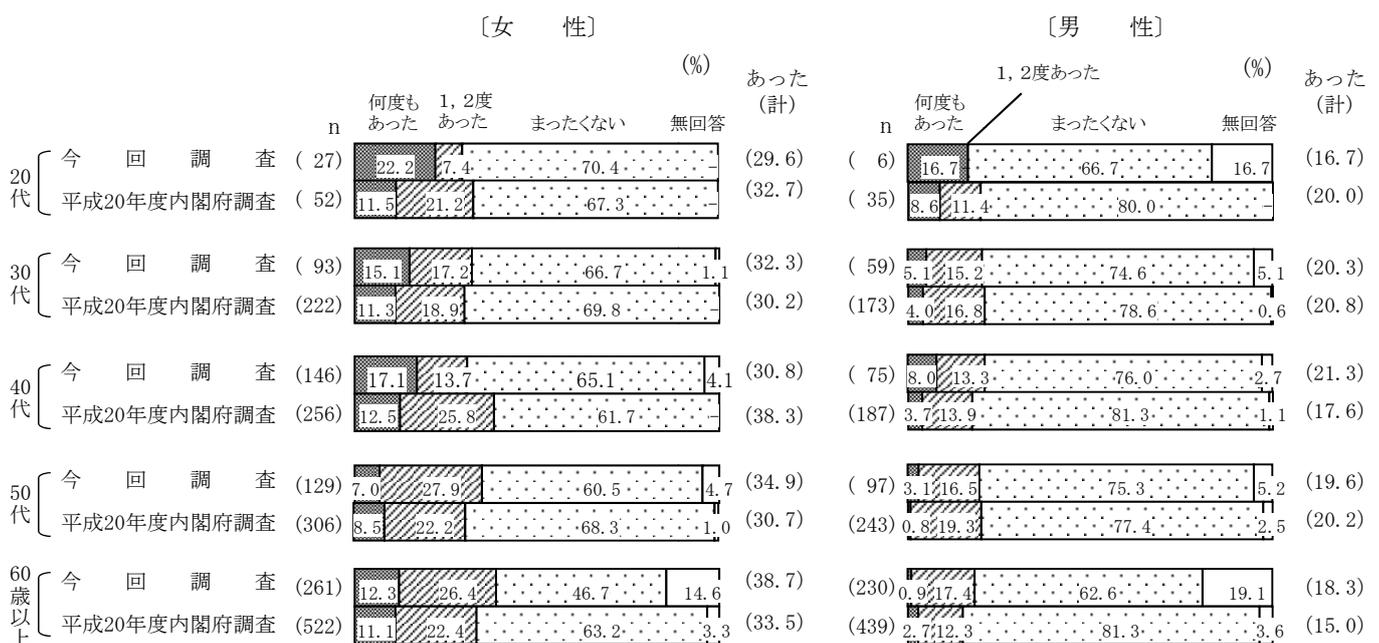


図20-6 配偶者からの被害経験の有無 平成20年度内閣府調査との比較(年代別)



## 配偶者からの被害経験の有無 被害の重複

配偶者からの被害経験の有無について、被害の重複を見ると、女性の場合、「身体的暴行のみ」(9.1%)が最も多く、次いで「身体的暴行、心理的攻撃、性的強要」(8.1%)の全てを受けている人が多くあがっている。

男性の場合は、「身体的暴行のみ」(6.9%)が最も多く、次いで「身体的暴行と心理的攻撃」(5.6%)となっている。「身体的暴行、心理的攻撃、性的強要」を受けている人は2.4%で、女性との差が大きくなっている。

図20-7 配偶者からの被害経験の有無 被害の重複 (性別)

【性別】 (%)	総数 (n)	身体的 暴行の み	心理的 攻撃の み	性的 強要の み	身体的 暴行と 心理的 攻撃	性的 強要と 心理的 攻撃	身体的 強要と 暴行	身体的 強要と 暴行と 心理的 攻撃	身体的 強要と 暴行と 心理的 攻撃と 性的 強要	ま つ た く な い	無 回 答
総数	1123	8.2	2.8	2.7	5.8	0.8	2.5	5.7	62.2	9.4	
女性	656	9.1	2.4	4.0	5.9	1.2	4.1	8.1	57.3	7.8	
男性	467	6.9	3.2	0.9	5.6	0.2	0.2	2.4	69.0	11.8	

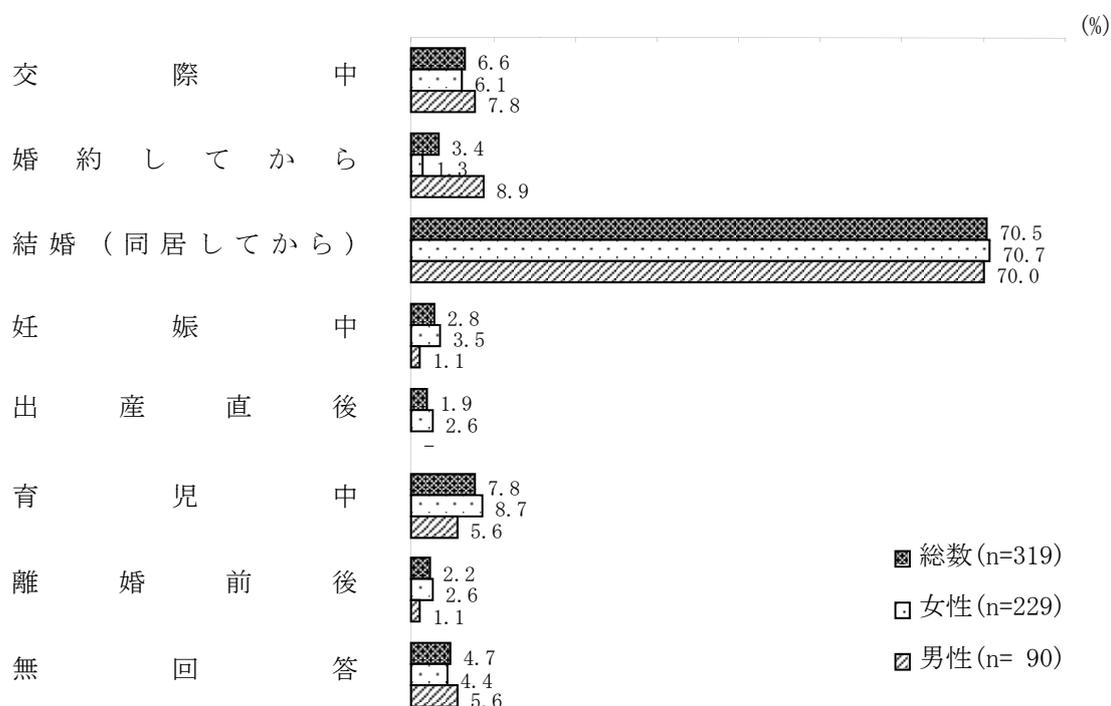
## 5 被害を最初に受けた時期

(問20でひとつでも「何度もあった」「1, 2度あった」と答えた人に)

問20付問1 そのような行為を最初に受けたのはいつですか。(○は1つ)

男女とも、「結婚(同居してから)」(女性70.7%、男性70.0%)が特に多くなっている。女性では、「育児中」(8.7%)、「交際中」(6.1%)が続いている。  
 男性では、「婚約してから」(8.9%)、「交際中」(7.8%)が続いている。  
 男女で比率の差が大きいのは「婚約してから」で、男性の方が女性より8ポイント多くなっている。

図201-1 被害を最初に受けた時期 項目別一覧(性別)



## 被害を最初に受けた時期

### 【性別】

前頁参照。

### 【年代別】

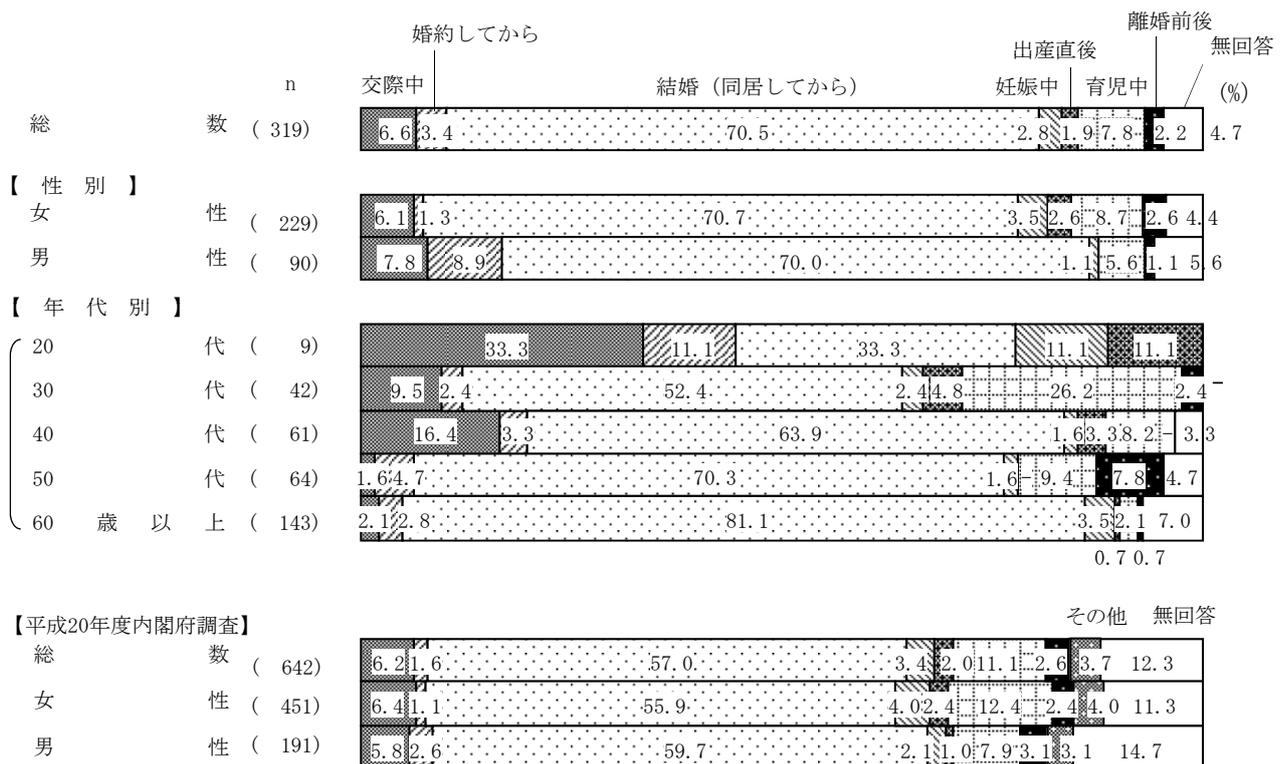
年代別で見ると、「交際中」は20代（33.3%）が最も多い。「結婚（同居してから）」は60歳以上（81.1%）で最も多く、年代が上がるごとに多くなる傾向にある。「育児中」は30代（26.2%）で多くなっている。

### 【平成20年度内閣府調査との比較】

内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較すると、女性では、「結婚（同居してから）」は、今回調査（70.7%）が内閣府調査（55.9%）よりも15ポイント多くなっている。

男性では、「婚約してから」は、今回調査（8.9%）が内閣府調査（2.6%）よりも6ポイント多くなっている。「結婚（同居してから）」も、女性と同様に今回調査（70.0%）が内閣府調査（59.7%）よりも10ポイント多くなっている。

図201-2 被害を最初に受けた時期（性別、年代別、平成20年度内閣府調査結果）



## 6 この1年と2～5年の被害状況

(問20でひとつでも「何度もあった」「1, 2度あった」と答えた人に)

問20付問2 では、この1年とこの2～5年にはどうでしたか。それぞれについてあてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

(a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。

### 【性別】

男女ともに「5年以内にはなかった」(女性66.8%、男性64.4%)、「この2～5年にあった」(女性13.1%、男性13.3%)、「この1年にあった」(女性8.7%、男性7.8%)となっており、男女で大きな差は見られない。

### 【年代別】

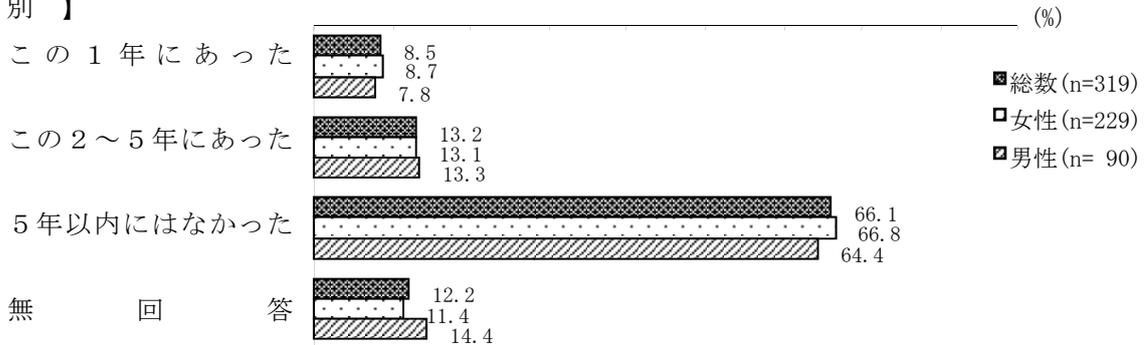
「5年以内にはなかった」は50代(89.1%)が他の年代と比べて多い。

### 【平成20年度内閣府調査との比較】

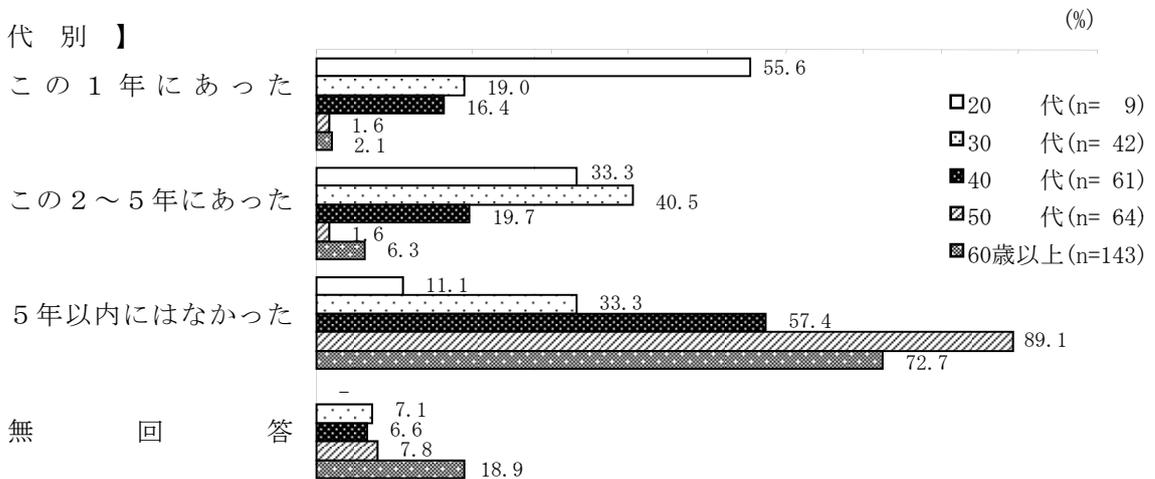
内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較すると、男性において、「この2～5年にあった」の比率が、今回調査(13.3%)よりも内閣府調査(23.6%)の方が10ポイント多くなっている。

図202-1 この1年と2～5年の被害状況 (a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。  
(性別、年代別、平成20年度内閣府調査結果)

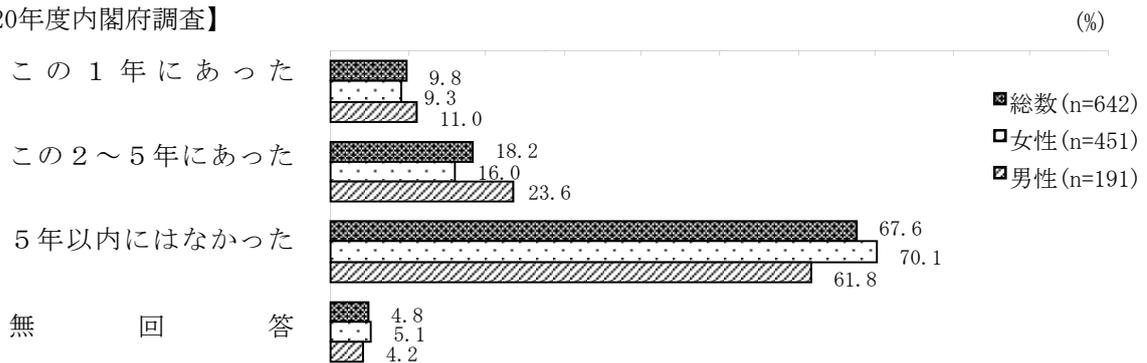
【性別】



【年代別】



【平成20年度内閣府調査】



## この1年と2～5年の被害状況

(b) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。

### 【性別】

「5年以内にはなかった」は、女性（62.4%）が男性（55.6%）よりも7ポイント多く、「この2～5年にあった」は男性（18.9%）が女性（14.0%）よりも5ポイント多い。

### 【年代別】

「この2～5年にあった」は年代が上がるごとに比率は下がっている。「5年以内にはなかった」は50代（71.9%）、60歳以上（67.1%）が多い。

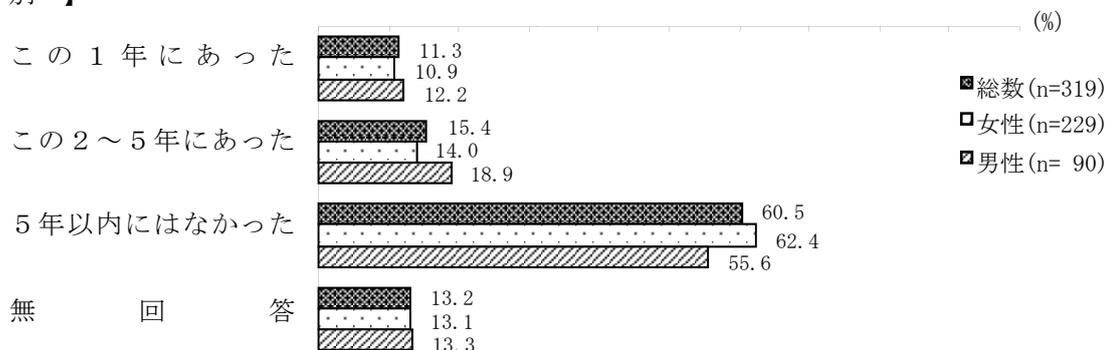
### 【平成20年度内閣府調査との比較】

内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較すると、「5年以内にはなかった」は、女性では今回調査（62.4%）が10ポイント、男性では今回調査（55.6%）が16ポイント少ない。

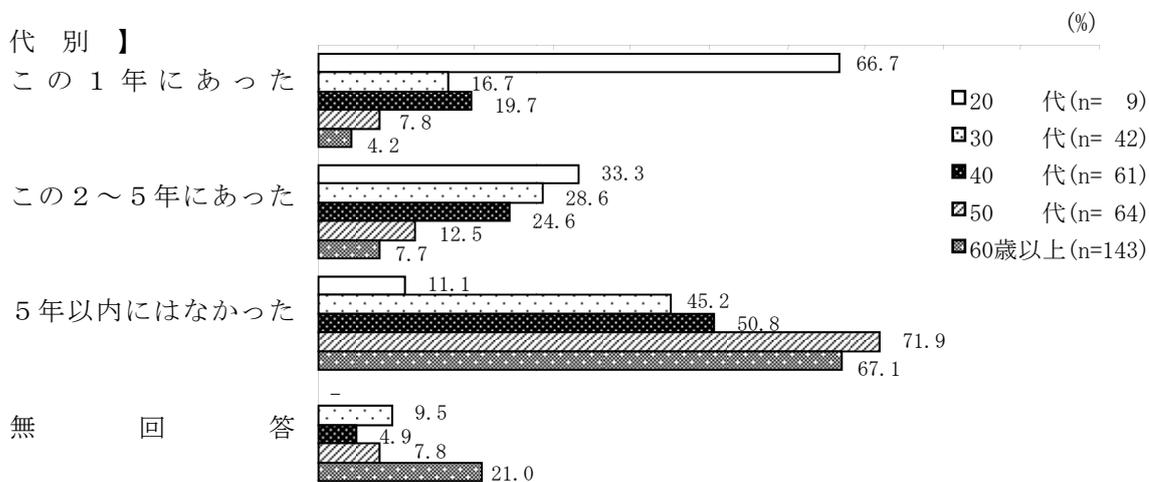
注）但し、無回答者も男女とも今回調査の方が10ポイント多い。

図202-2 この1年と2～5年の被害状況（b）人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。  
（性別、年代別、平成20年度内閣府調査結果）

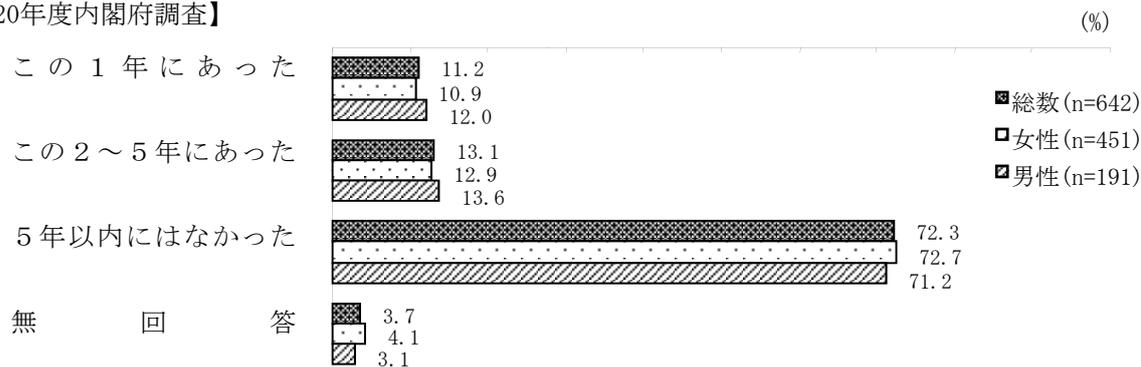
【性別】



【年代別】



【平成20年度内閣府調査】



## この1年と2～5年の被害状況

(c) いやがっているのに性的な行為を強要された。

### 【性別】

男性（74.4%）が女性（69.4%）よりも5ポイント多い。一方、「この2～5年にあった」は女性（11.8%）が男性（4.4%）よりも7ポイント多く、「この1年にあった」は女性（5.7%）が男性（2.2%）よりも4ポイント多い。

### 【年代別】

「この1年にあった」は、30代（14.3%）が最も多い。「5年以内にはなかった」は50代（89.1%）で最も多く、他の年代でも5割を超えている。

### 【平成20年度内閣府調査との比較】

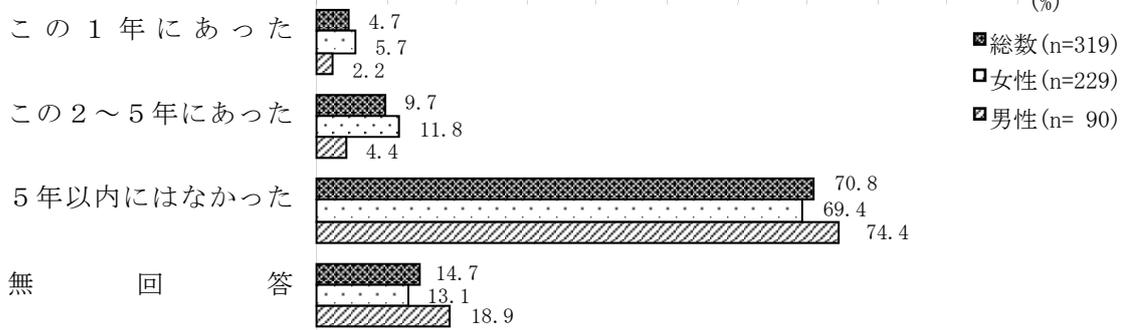
内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較すると、女性では「この2～5年にあった」（11.8%）は4ポイント多く、「5年以内にはなかった」（69.4%）は11ポイント少ない。

男性では、「5年以内にはなかった」（74.4%）が16ポイント少なくなっている。

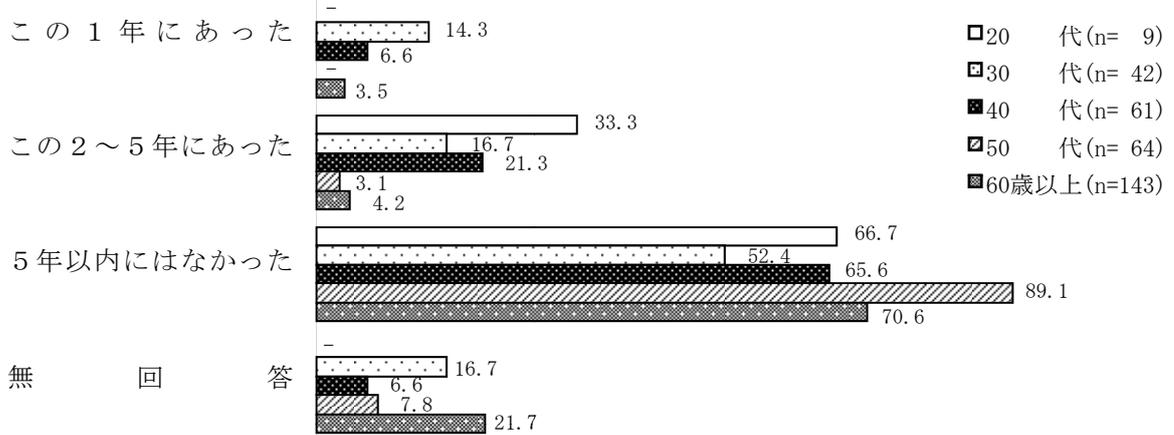
図202-3 この1年と2～5年の被害状況 (c) いやがっているのに性的な行為を強要された。

(性別、年代別、平成20年度内閣府調査結果)

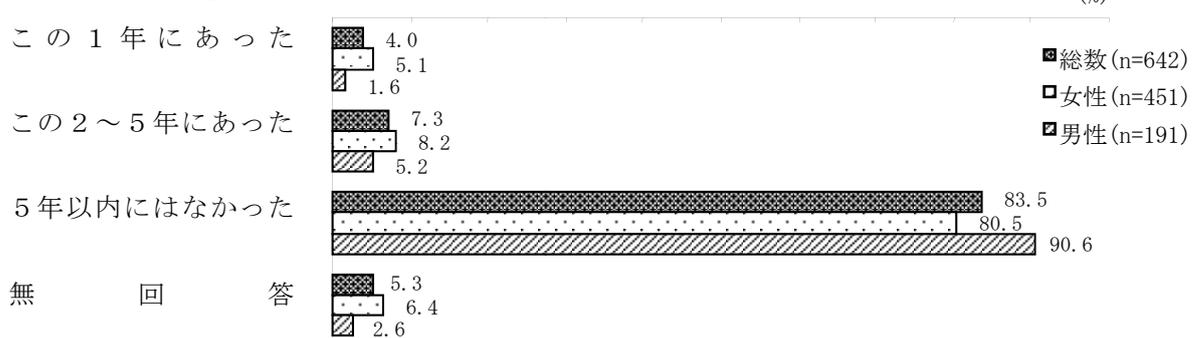
【性別】



【年代別】



【平成20年度内閣府調査】



この1年と2～5年の被害状況・まとめ

【平成20年度内閣府調査との比較】

内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較すると、男女ともに大きな差は見られない。

図202-4 この1年と2～5年の被害状況 平成20年度内閣府調査との比較（性別）

		n	あった	5年以内 にはない	これまでまったく ない	(%) 無回答
総数	今回調査	(1,123)	10.9	14.8	62.2	12.2
	平成20年度内閣府調査	(2,435)	11.4	14.5	73.6	0.5
女性	今回調査	(656)	13.1	18.3	57.3	11.3
	平成20年度内閣府調査	(1,358)	13.6	19.0	66.8	0.6
男性	今回調査	(467)	7.7	9.9	69.0	13.5
	平成20年度内閣府調査	(1,077)	8.5	8.8	82.3	0.4

※『あった』は調査票選択肢の「この1年にあった」「この2～5年にあった」を合計したもの。

## 7 相談経験の有無

(問20付問2でひとつでも「この1年にあった」「この2～5年にあった」と答えた人に)

問20付問3 あなたはこの5年の間に配偶者からのそのような行為について、どこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

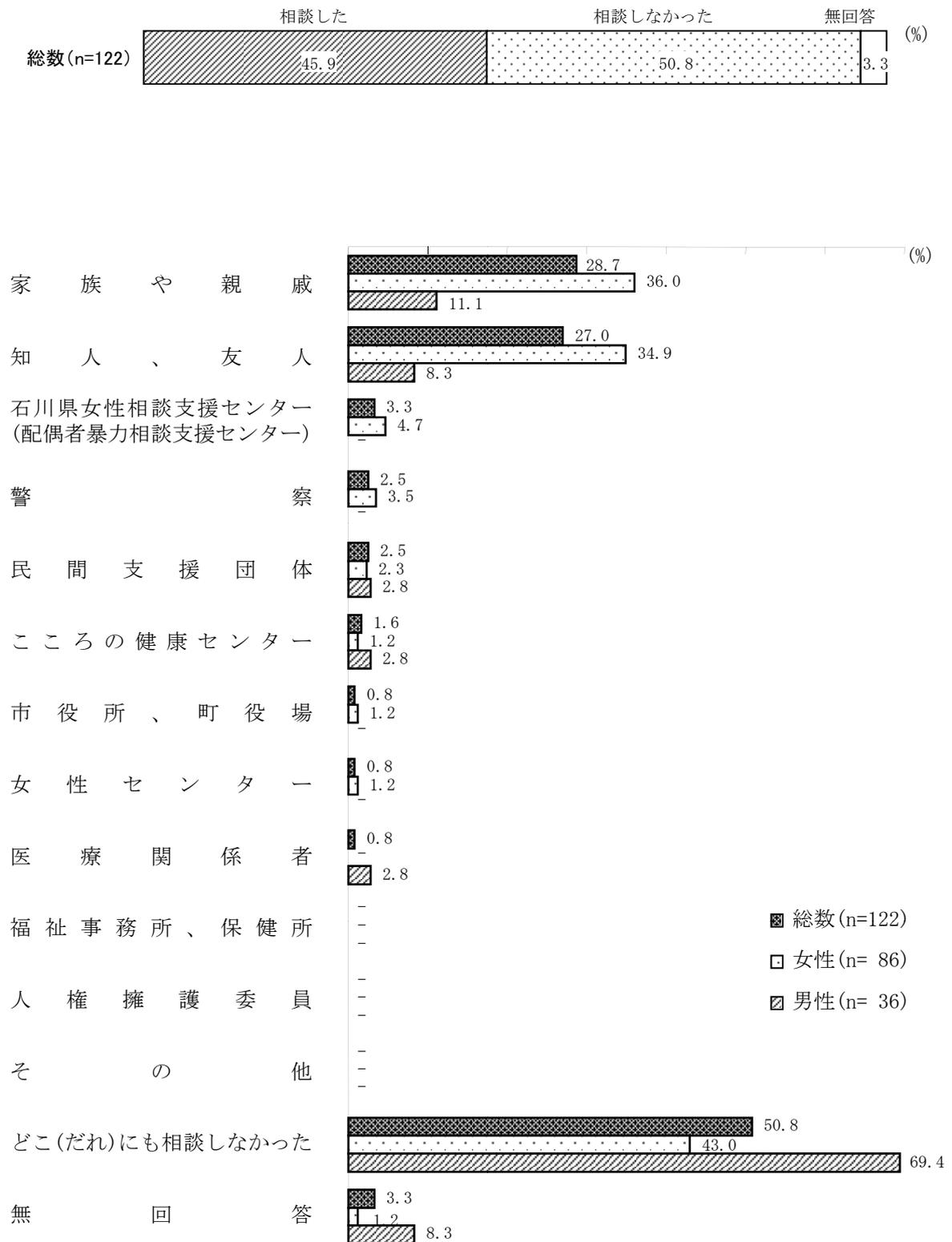
(○はいくつでも)

暴力を受けたことが「この1年にあった」「この2～5年にあった」と答えた人に、だれかに打ち明けたり、相談したりしたかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は45.9%で、「相談しなかった」人50.8%が上回っている。

相談した人のうち、どこ(だれ)に相談したかを見ると、男女ともに「家族や親戚」(女性36.0%、男性11.1%)と「知人、友人」(女性34.9%、男性8.3%)が多くなっており、その他は総じて5%未満になっている。

性別で見ると、男性は女性に比べ「家族や親戚」で25ポイント少なく、「知人、友人」では27ポイント少なくなっている。また、「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた人は、男性(69.4%)の方が女性(43.0%)よりも26ポイント多くなっている。

図203-1 相談経験の有無 どこ(だれ)に相談したか 項目別一覧(性別)



## 相談経験の有無 どこ(だれ)に相談したか

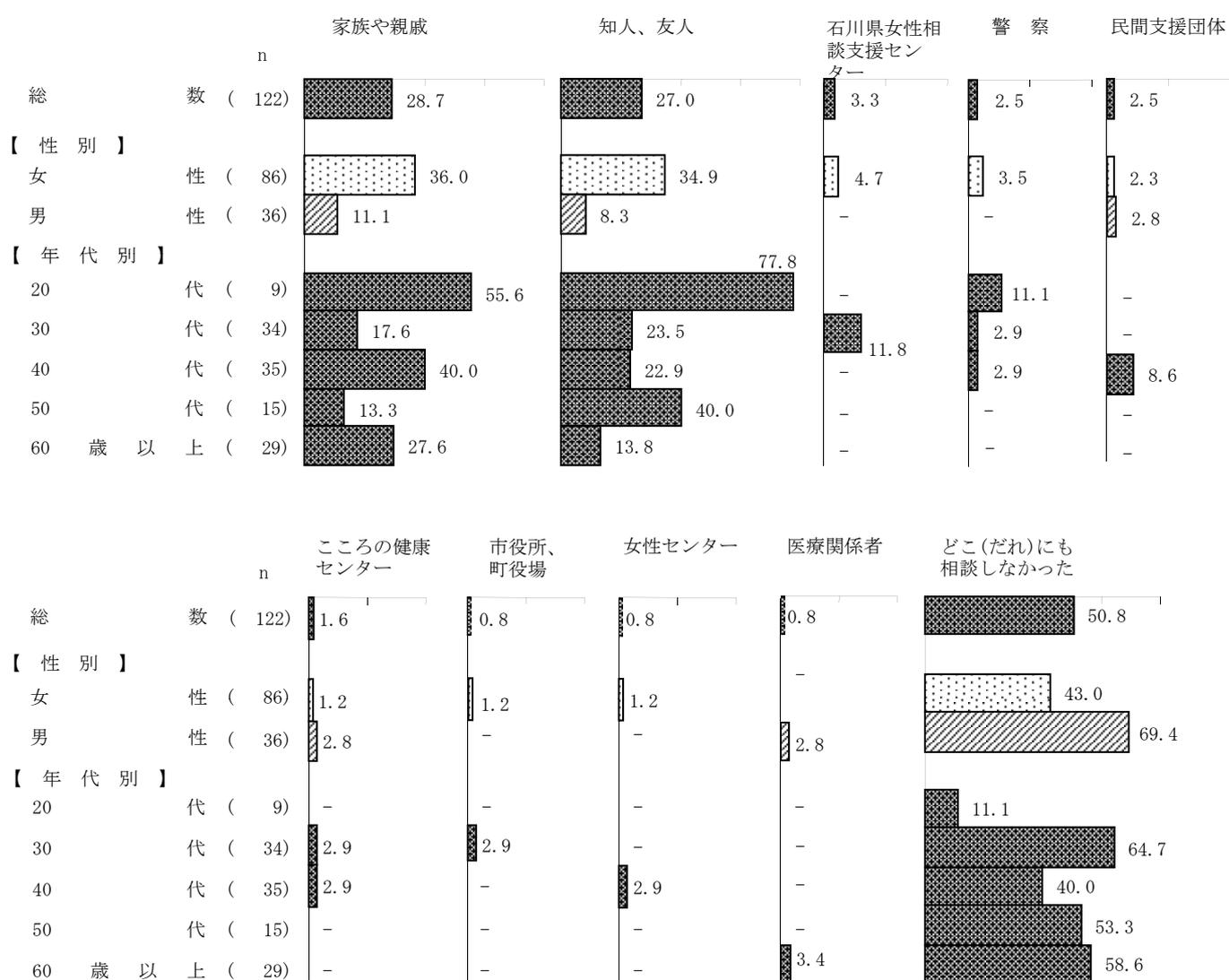
### 【性別】

前頁参照。

### 【年代別】

「家族や親戚」は、20代（55.6%）が最も多く、50代（13.3%）が最も少ない。「知人、友人」は、20代（77.8%）が最も多く、60歳以上（13.8%）で最も少なくなっている。「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、30代（64.7%）が最も多く、20代（11.1%）が最も少なくなっている。

図203-2 相談経験の有無（性別、年代別）



## 8 相談しなかった理由

(問20付問3で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた人に)

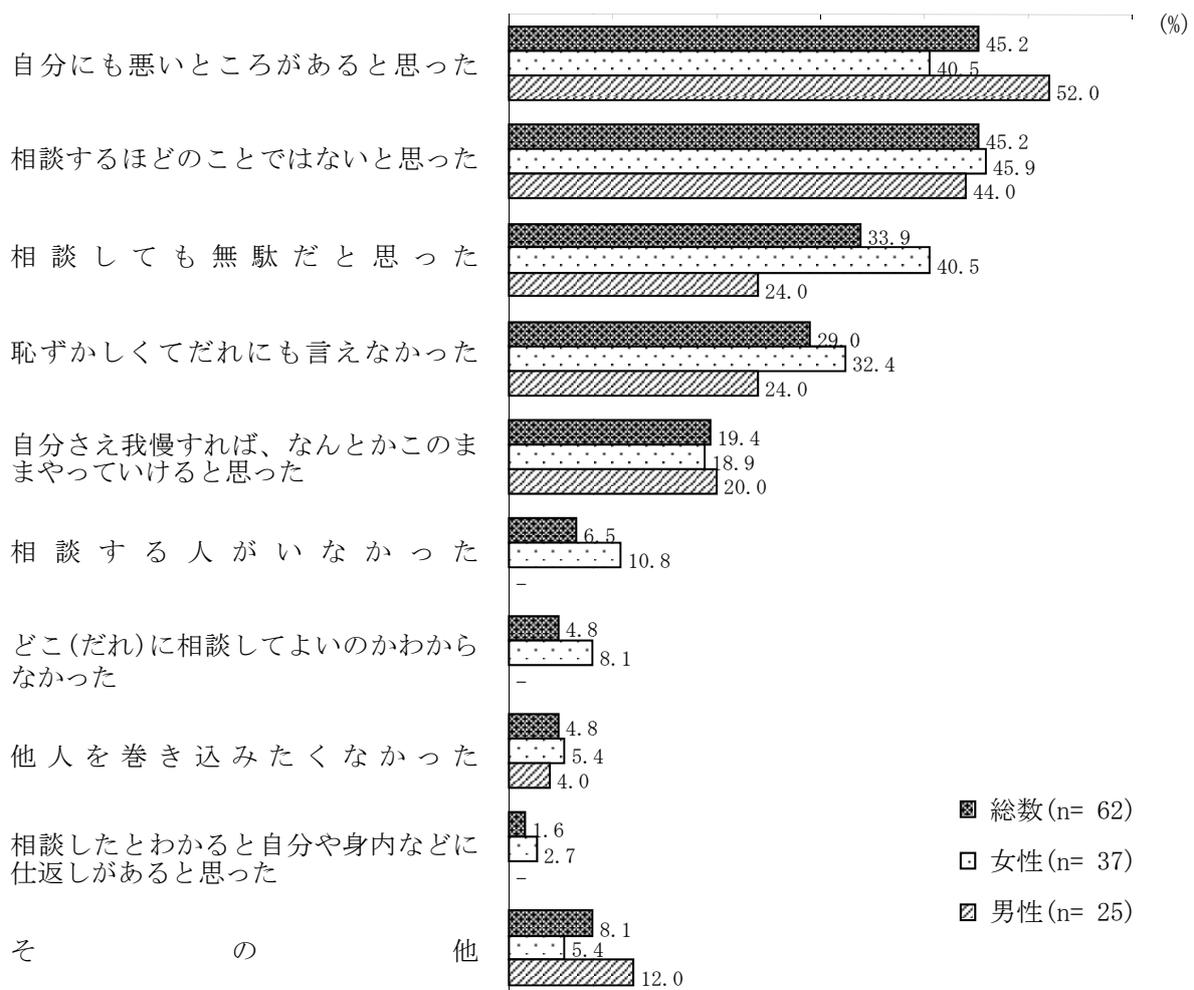
問20付問4 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

暴力を受けたことについて「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、女性の場合、「相談するほどのことではないと思った」(45.9%)が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」「相談しても無駄だと思った」(ともに40.5%)が4割台で多くあがっている。

一方、男性の場合は「自分にも悪いところがあると思った」(52.0%)が最も多く5割を超えており、以下「相談するほどのことではないと思った」(44.0%)、「相談しても無駄だと思った」「恥ずかしくてだれにも言えなかった」(ともに24.0%)となっている。

男女間で比率の差が大きいのは「相談しても無駄だと思った」で、女性の方が男性よりも17ポイント多くなっている。

図204-1 相談しなかった理由 項目別一覧(性別)



## 9 交際相手からの被害経験の有無

(10歳代、20歳代に交際相手がいた(いる)方に)

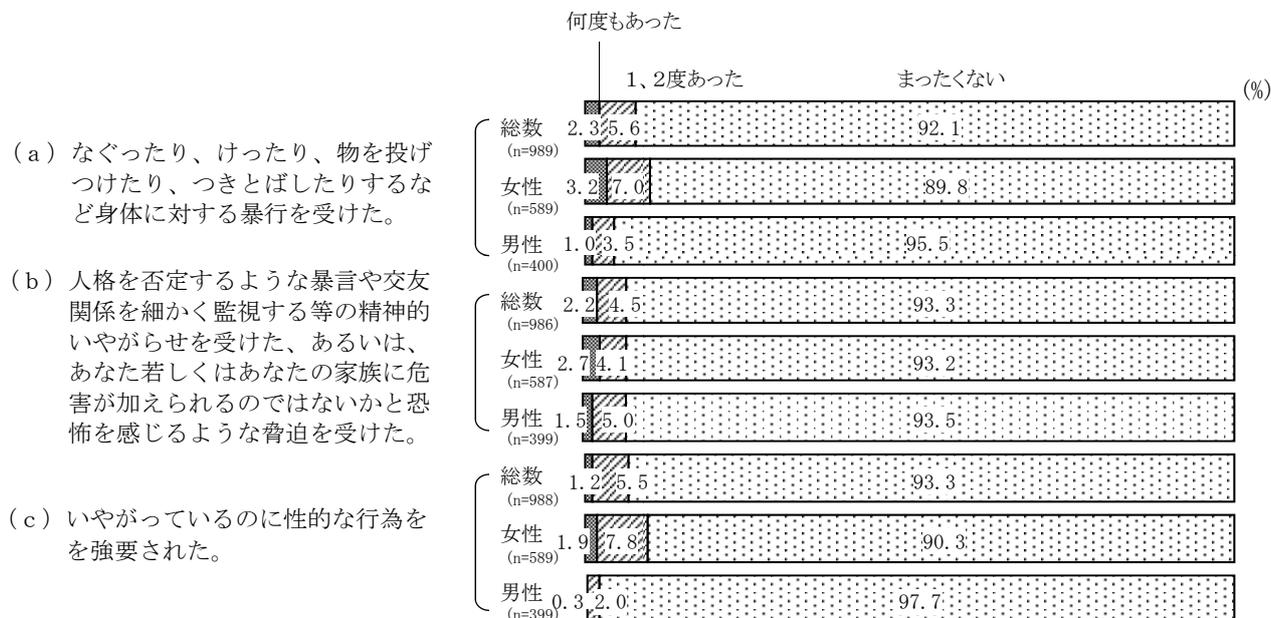
問21 あなたは、10歳代、20歳代に、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。  
次のそれぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください。(それぞれ○は1つだけ)

“(a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。”では、「何度もあった」(女性3.2%、男性1.0%)「1、2度あった」(女性7.0%、男性3.5%)を合わせて見ると、女性の方が男性を6ポイント上回っている。

“(b) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。”では、「何度もあった」(女性2.7%、男性1.5%)「1、2度あった」(女性4.1%、男性5.0%)を合わせて見ると、男女に比率の差は見られない。

“(c) いやがっているのに性的な行為を強要された。”は、「何度もあった」(女性1.9%、男性0.3%)「1、2度あった」(女性7.8%、男性2.0%)を合わせて見ると、女性の方が男性を7ポイント上回っている。特に「1、2度あった」は女性の方が男性よりも5ポイント多くなっている。3項目全てで、「何度もあった」と「1、2度あった」は女性の方が男性より比率が高くなっている。

図21-1 交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧(性別)



交際相手からの被害経験の有無

(a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。

【性別】

図21-1解説参照。

【年代別】

女性では、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、20代（「何度もあった」6.9%、「1、2度あった」8.6%）が最も多く、年代が上がるごとに比率は下がっている。

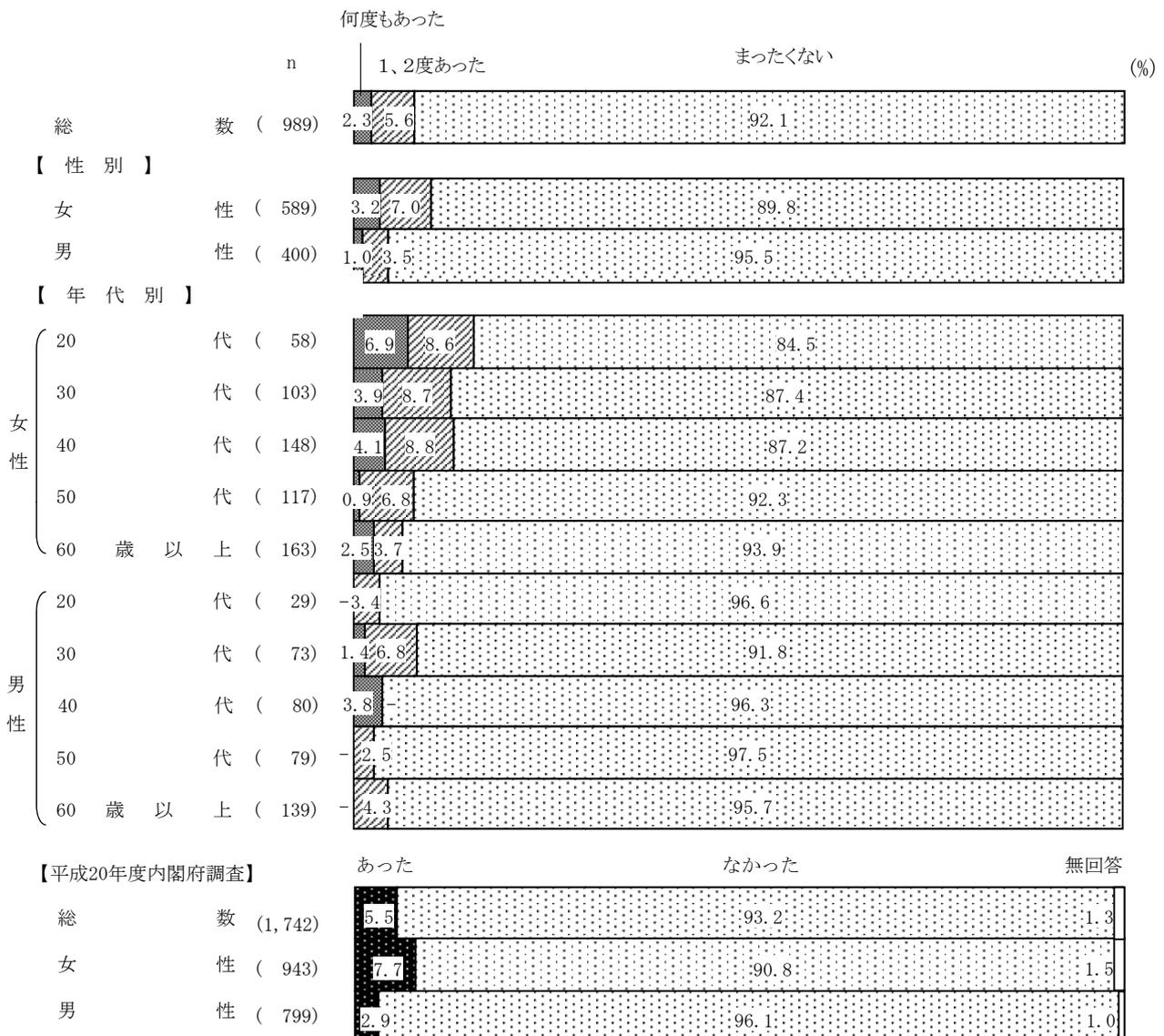
男性では、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、30代（「何度もあった」1.4%、「1、2度あった」6.8%）が最も多く「何度もあった」は40代（3.8%）で最も多い。

【平成20年度内閣府調査との比較（参考）】

内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果は、質問方法、選択肢が異なるため参考値として掲載する。

※『あった』は選択肢の「10歳代にあった」「20歳代にあった」を合計したもの。『なかった』は選択肢の「10歳代、20歳代のいずれもなかった」を合計したもの。次頁以降も同様。

図21-2 交際相手からの被害経験の有無 (a) なぐったり、けったり、物を投げつけたり、つきとばしたりするなど身体に対する暴行を受けた。 (性別、地域別、年代別、平成20年度内閣府調査)



交際相手からの被害経験の有無

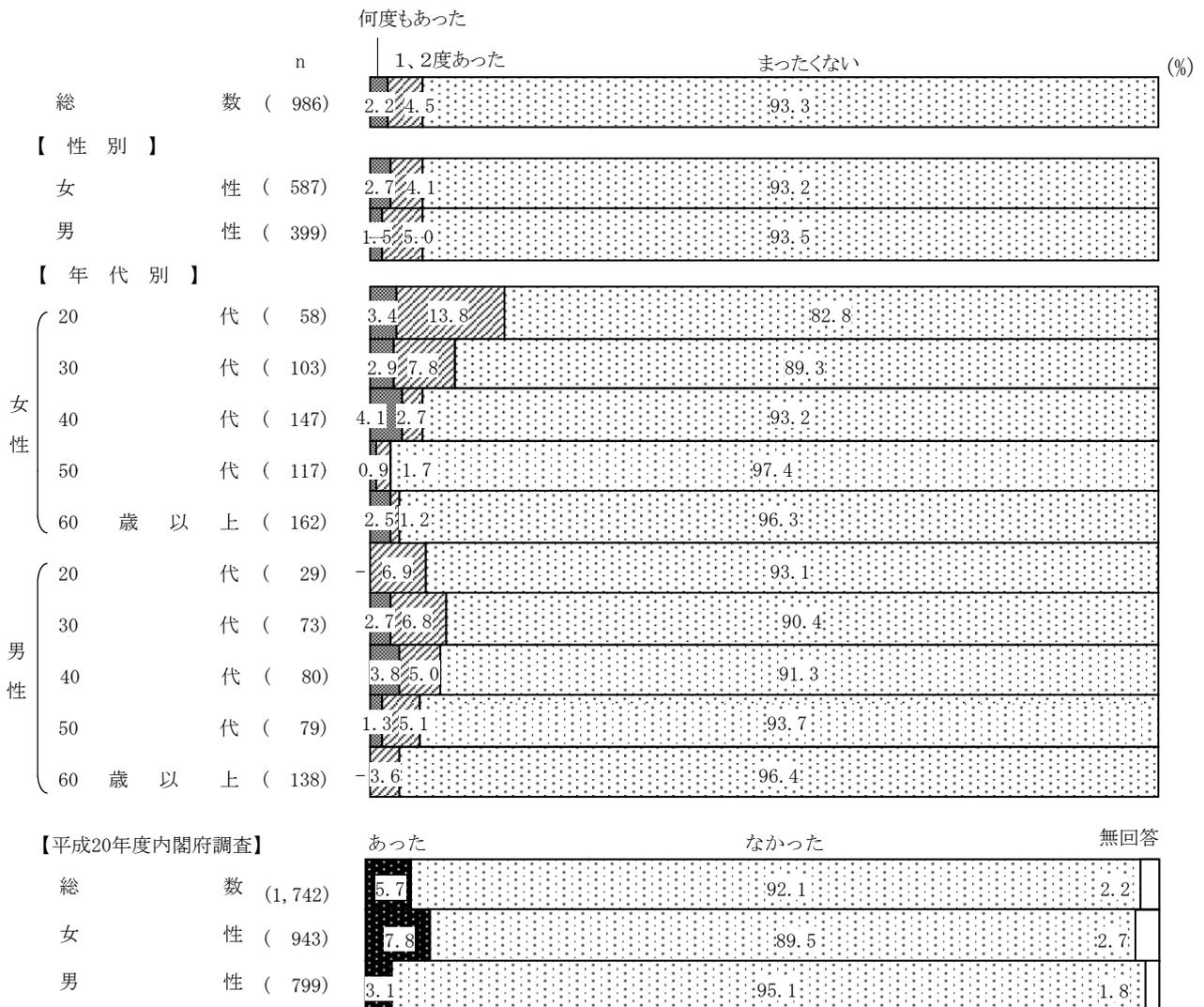
(b) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。

**【性別】**  
 図21-1解説参照。

**【年代別】**  
 女性では、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、20代（「何度もあった」3.4%、「1、2度あった」13.8%）が最も多い。  
 男性では、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、30代（「何度もあった」2.7%、「1、2度あった」6.8%）が最も多い。

**【平成20年度内閣府調査との比較（参考）】**  
 内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果は、質問方法、選択肢が異なるため参考値として掲載する。

図21-3 交際相手からの被害経験の有無 (b) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視する等の精神的いやがらせを受けた、あるいは、あなた若しくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた。  
 （性別、地域別、年代別、平成20年度内閣府調査）



交際相手からの被害経験の有無

(c) いやがっているのに性的な行為を強要された。

【性別】

図21-1解説参照。

【年代別】

女性では、20代で「1、2度あった」(22.0%)が他の年代と比べて多く、「何度もあった」は60代(3.7%)で最も多い。

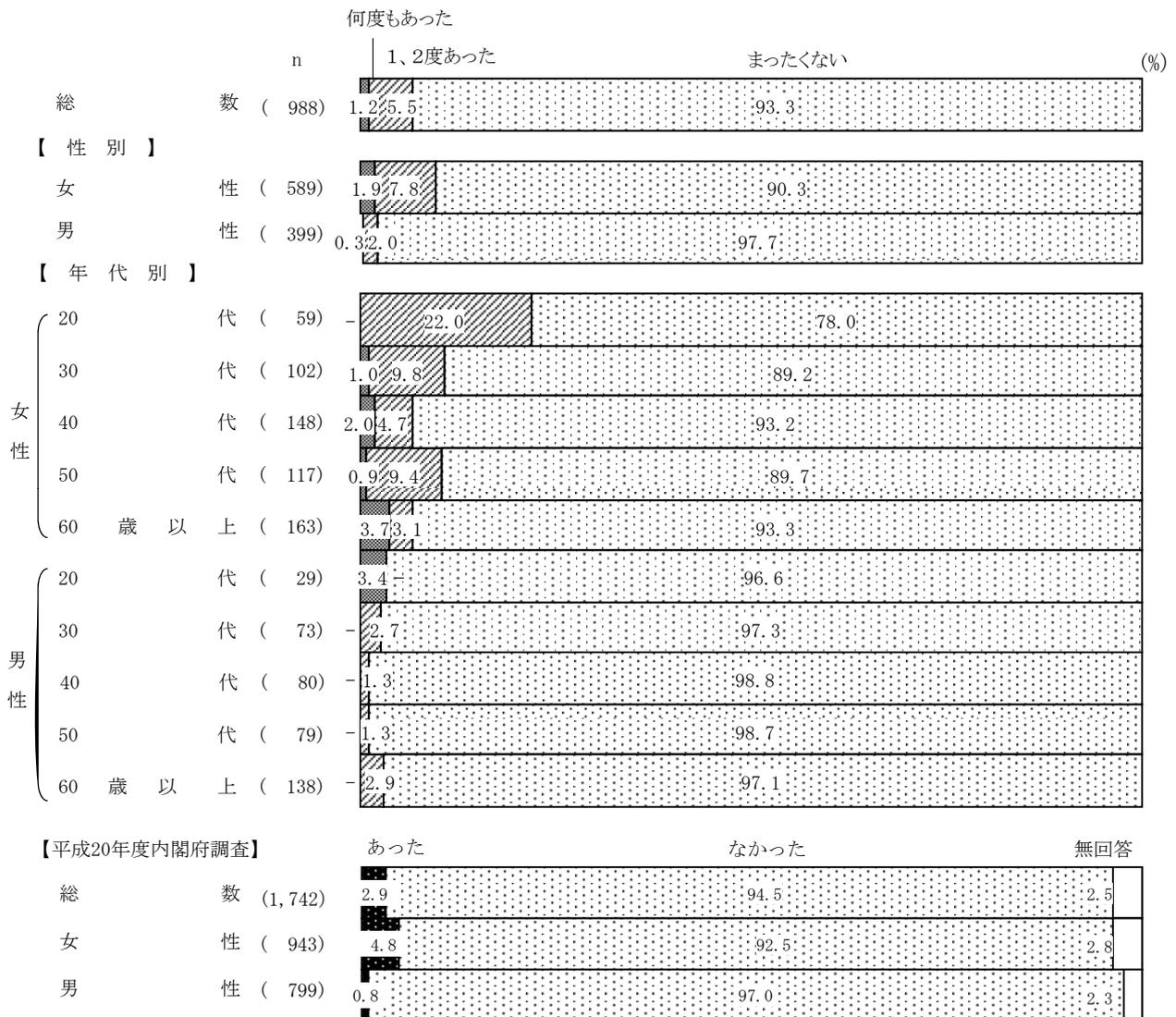
男性では、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせると、20代(「何度もあった」3.4%、「1、2度あった」3.1%)が最も多くなっている。

【平成20年度内閣府調査との比較(参考)】

内閣府が平成20年10~11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果は、質問方法、選択肢が異なるため参考値として掲載する。

図21-4 交際相手からの被害経験の有無 (c) いやがっているのに性的な行為を強要された。

(性別、地域別、年代別、平成20年度内閣府調査)



交際相手からの被害経験の有無 平成20年度内閣府「男女間における暴力に関する調査」との比較  
 (内閣府が平成20年10～11月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をする。)

【性別】

男女ともに、今回調査で「あった」（調査票選択肢の「何度もあった」「1、2度あった」を合計したもの）と答えた人は、内閣府調査と比べて、女性は4ポイント、男性は5ポイント多くなっている。

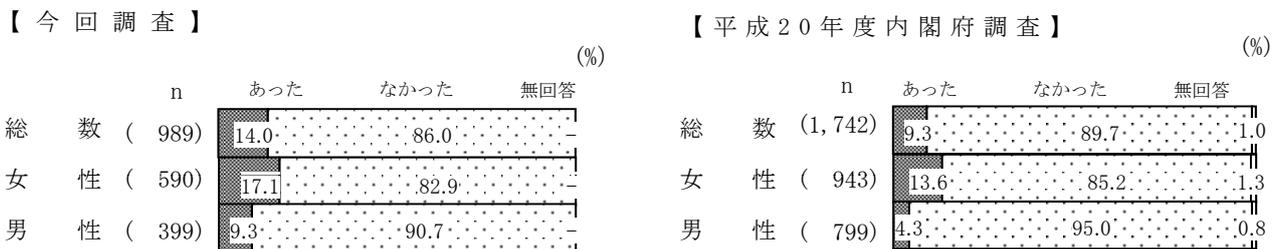
【年代別】

女性では、「あった」は30代以外の全ての年代で、今回調査が内閣府調査の比率を上回っており、20代では今回調査（37.3%）が内閣府調査（21.3%）よりも16ポイント上回っている。同様に、50代では7ポイント、60歳以上では9ポイント今回調査の値が上回っている。今回調査・内閣府調査のどちらも、年代が上がるごとに「あった」の比率は低くなる傾向にある。

男性では、「あった」は全ての年代で今回調査が内閣府調査の比率を上回っている。最も比率の差が大きいのは50代で、今回調査（8.9%）が内閣府調査（1.3%）より7ポイント上回っている。また、女性と同様、今回調査・内閣府調査のどちらも、年代が上がるごとに「あった」の比率は低くなる傾向にある。

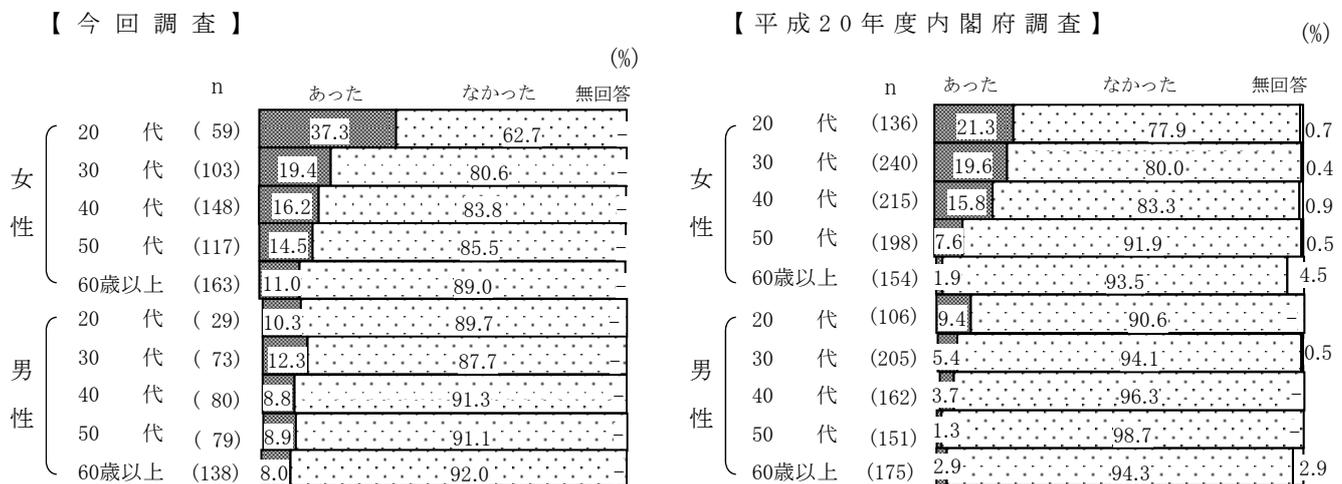
※但し、今回調査と内閣府調査では質問方法や選択肢が異なるため、厳密な比較はできないことに留意する必要がある。

図21-5 交際相手からの被害経験の有無 平成20年度内閣府調査との比較（性別）



※『あった』は調査票選択肢の「何度もあった」「1、2度あった」を合計したもの。

図21-6 交際相手からの被害経験の有無 平成20年度内閣府調査との比較（年代別）



交際相手からの被害経験の有無 被害の重複

交際相手からの被害経験の有無について、被害の重複を見ると、女性の場合、「性的強要のみ」(4.1%)が最も多く、以下「身体的暴行のみ」(3.9%)、「身体的暴行と性的強要」「身体的暴行、心理的攻撃、性的強要」(ともに2.4%)の順になっている。  
 男性の場合は、「心理的攻撃のみ」(3.5%)が最も多く、次いで「身体的暴行のみ」(2.3%)が続いている。「性的強要のみ」は女性は4.1%、男性は0.5%と差が大きくなっている。

図21-7 交際相手からの被害経験の有無 被害の重複 (性別)

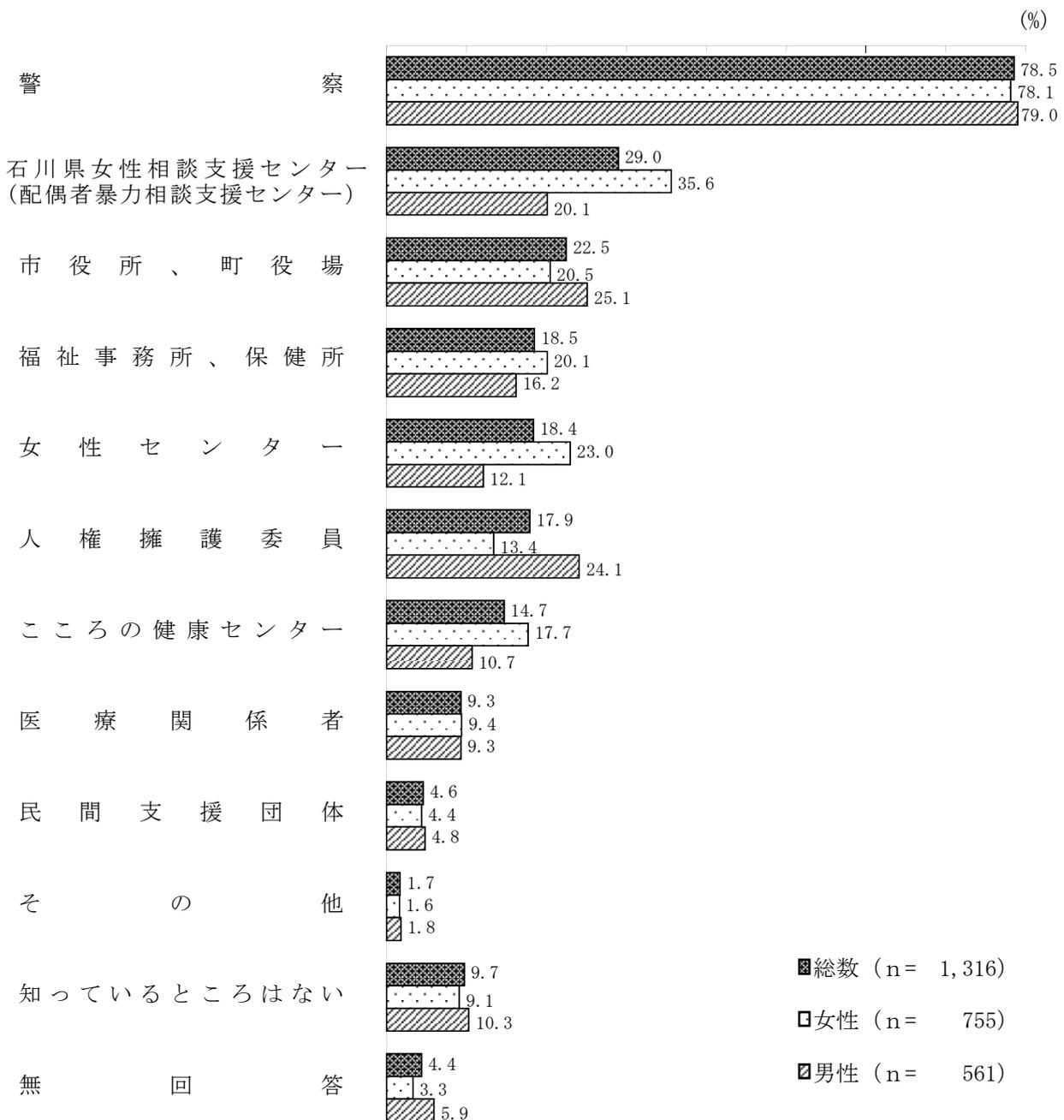
【性別】 (%)	総数 (n)	身体的暴行のみ	心理的攻撃のみ	性的強要のみ	身体的暴行と心理的攻撃	性的強要と心理的攻撃	身体的暴行と性的強要	身体的暴行・心理的攻撃・性的強要	まったくない
総数	989	3.2	2.6	2.6	1.4	0.8	1.4	1.8	86.0
女性	590	3.9	2.0	4.1	1.5	0.8	2.4	2.4	82.9
男性	399	2.3	3.5	0.5	1.3	0.8	-	1.0	90.7

## 10 相談機関・関係者の周知状況

問22 配偶者や交際相手など、親密な関係にある者から暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者でああなたが知っているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

男女とも「警察」(女性78.1%、男性79.0%)が最も多く、8割近くの人あげている。以下、女性では「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(35.6%)、「女性センター」(23.0%)、「市役所、町役場」(20.5%)の順となっている。  
男性では、「市役所、町役場」(25.1%)、「人権擁護委員」(24.1%)、「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(20.1%)の順となっている。

図22-1 相談機関・関係者の周知状況 項目別一覧(性別)



## 相談機関・関係者の周知状況

### 【性別】

「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」は16ポイント、「女性センター」は11ポイント、それぞれ女性の方が多くなっている。「人権擁護委員」は男性の方が11ポイント多くなっている。

### 【地域別】

女性では、全ての地域で「警察」が特に多くあげられており、能登北部（85.7%）で他の地域に比べ多い。「福祉事務所、保健所」も能登北部（36.7%）で多くなっている。また、「女性センター」は石川中央（27.8%）が多い。

男性では、いずれの地域でも「警察」が特に多くあがっている。「人権擁護委員」は能登北部（44.4%）、能登中部（31.6%）が多い。「福祉事務所、保健所」は女性同様、能登北部（27.8%）で多くなっている。

### 【年代別】

男女とも、全ての世代で「警察」が最も多くあげられ、女性は50代（87.3%）、男性は30代（89.3%）で最も多くなっている。「人権擁護委員」は高年齢層で多く、60歳以上（女性23.5%、男性36.7%）で多くなっている。「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」は女性の50代（43.3%）、60歳以上（41.8%）で4割を超え、男性の「市役所、町役場」は20代を除いて2割を超えている。

### 【未既婚別】

女性では、未婚者で「市役所、町役場」（27.8%）が多くなっており、離死別者は「人権擁護委員」（20.4%）が他と比べ多くなっている。

男性では、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」「人権擁護委員」が、未婚者に比べ有配偶者、離死別者でそれぞれ10ポイント以上多くなっている。

### 【平成17年度調査との比較】

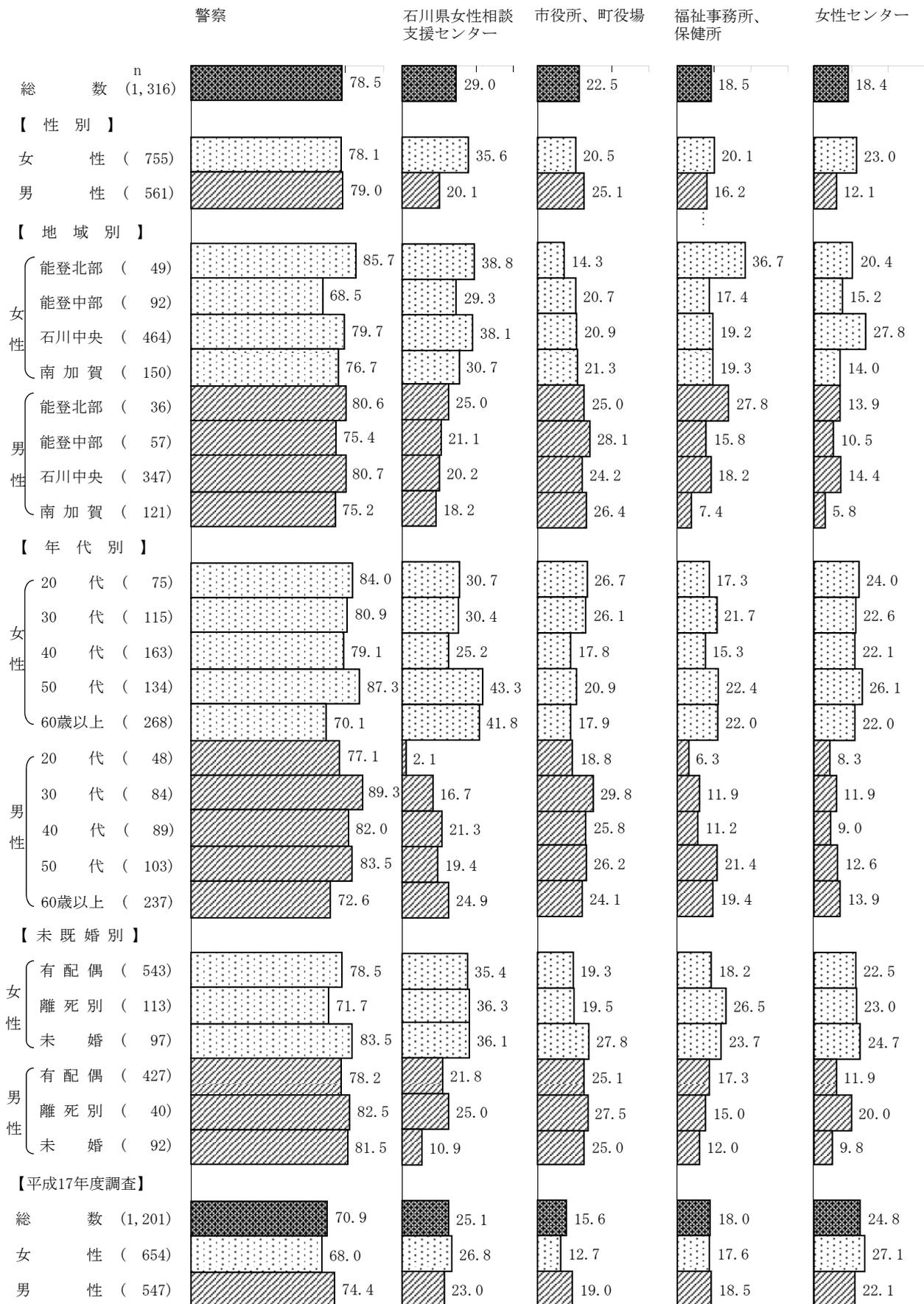
総数では、「警察」が8ポイント、「市役所、町役場」が7ポイント増加し、「女性センター」が6ポイント、「人権擁護委員」が8ポイント減少している。

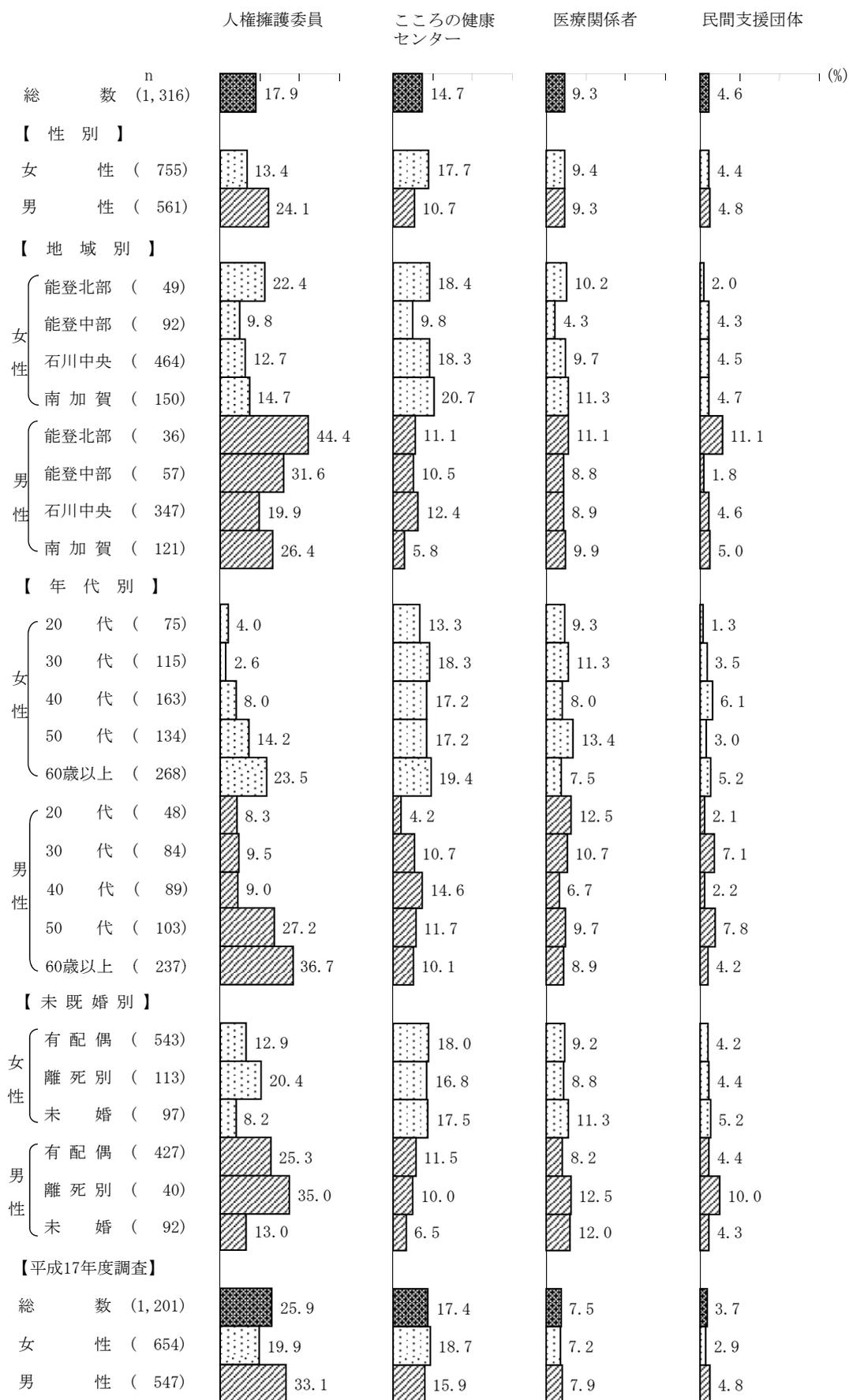
女性では、「警察」が10ポイント、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が9ポイント、「市役所、町役場」が8ポイント増加している。

一方、男性は「女性センター」が10ポイント、「人権擁護委員」が9ポイント減少し、「市役所、町役場」は、女性同様、6ポイント増加している。

図22-2 相談機関・関係者の周知状況

(性別、地域別、年代別、未既婚別、平成17年度調査結果)





## 1.1 暴力をなくすために必要なこと

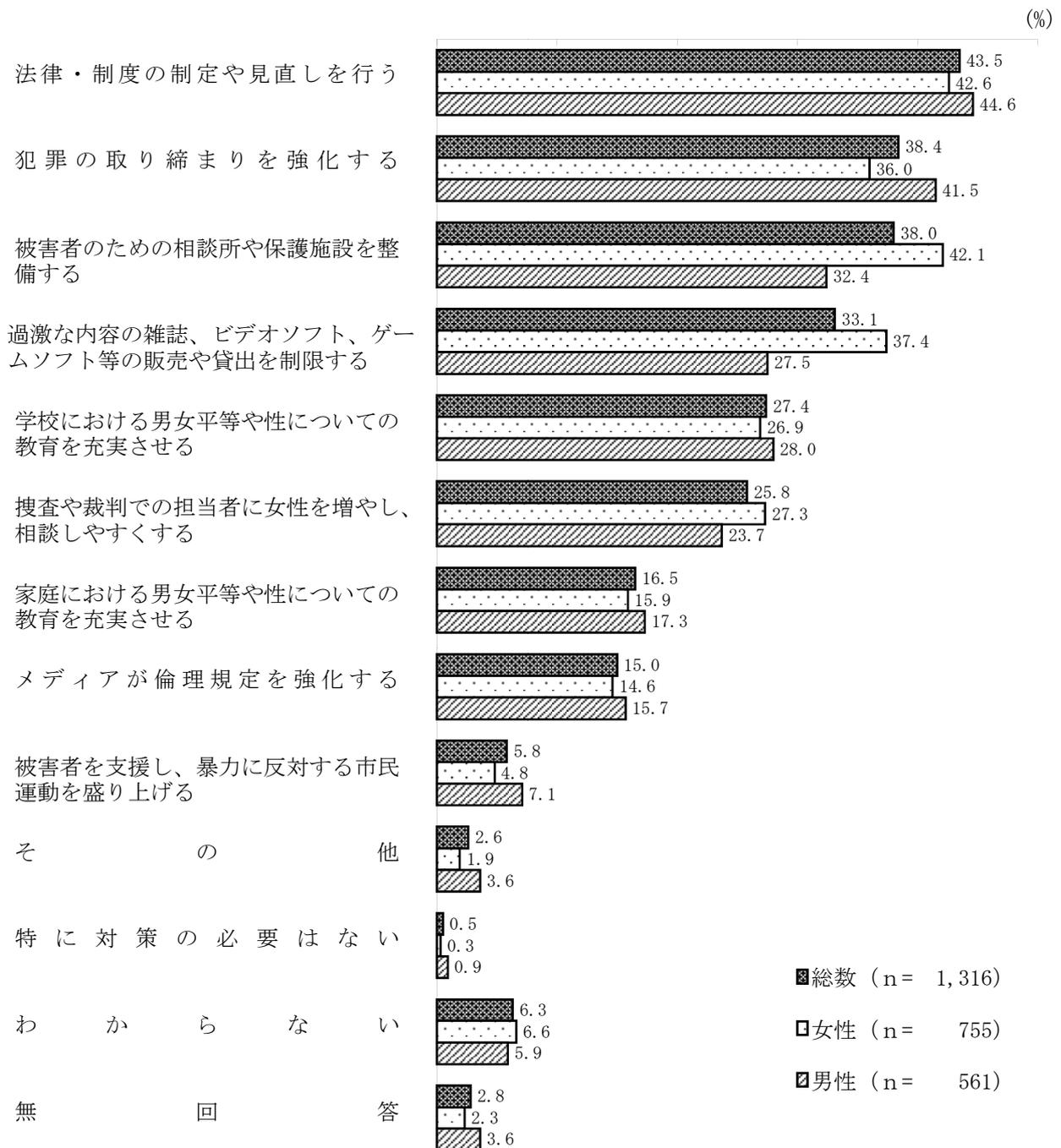
問23 性犯罪、売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント等、女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。

（○は3つまで）

男女ともに、「法律・制度の制定や見直しを行う」（女性42.6%、男性44.6%）が最も多く、以下、女性では「被害者のための相談所や保護施設を整備する」（42.1%）、「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」（37.4%）、「犯罪の取り締まりを強化する」（36.0%）の順となっている。

一方、男性では、「犯罪の取り締まりを強化する」（41.5%）、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」（32.4%）、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」（28.0%）の順となっている。

図23-1 暴力をなくすために必要なこと 項目別一覧（性別）



## 暴力をなくすために必要なこと

### 【性別】

「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」は10ポイント、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」は10ポイント、それぞれ女性の方が多くなっている。

### 【地域別】

女性では、能登北部で「犯罪の取り締まりを強化する」(51.0%)が半数を超えている。また、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする」(38.8%)も他の地域に比べ多くなっている。

男性の場合、能登中部で「法律・制度の制定や見直しを行う」(52.6%)で半数を超えており、「犯罪の取り締まりを強化する」(47.4%)も多くなっている。また、能登北部で「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする」(30.6%)が、女性同様、他の地域よりも多くなっている。「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」は、石川中央(21.9%)で特に少なくなっている。

### 【年代別】

女性では、「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」は年代が高いほど多く、50代(44.0%)、60歳以上(46.3%)では4割を超えている。「法律・制度の制定や見直しを行う」は、20代(52.0%)が半数を超えている。また、「犯罪の取り締まりを強化する」(46.7%)も20代で多くなっている。

男性でも、「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」は年代が高いほど多く60歳以上(39.2%)では4割近くなっている。また、40代で「被害者のための相談所や保護施設を整備する」(41.6%)、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする」(34.8%)が多くなっている。

### 【未既婚別】

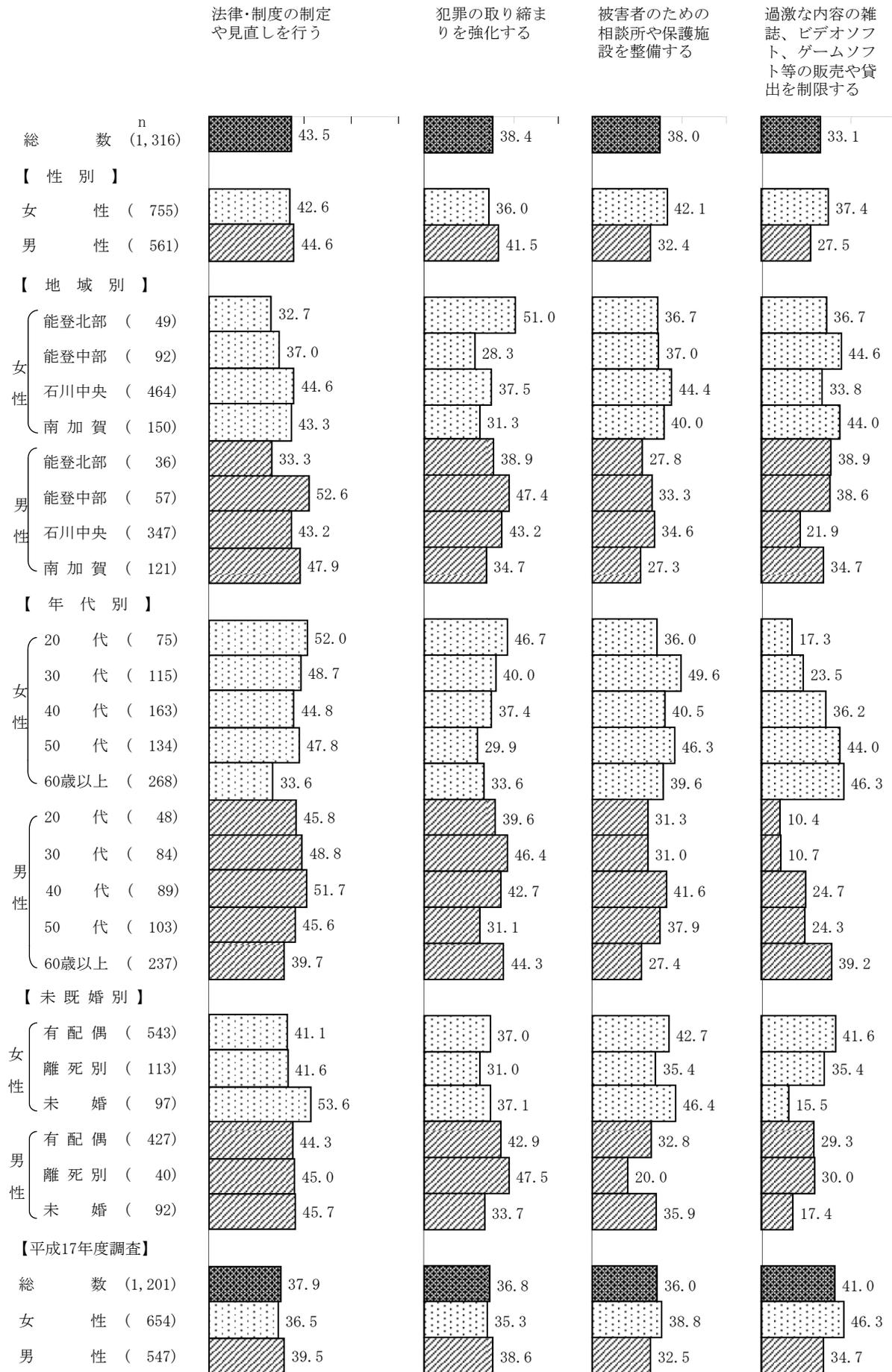
女性では、未婚者で「法律・制度の制定や見直しを行う」(53.6%)、「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」(33.0%)、「家庭における男女平等や性についての教育を充実させる」(21.6%)などが他と比べ多くあがり、有配偶者では「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」(41.6%)が他と比べ多くなっている。

男性では、「犯罪の取り締まりを強化する」が有配偶者(42.9%)、離死別者(47.5%)、「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」が有配偶者(29.3%)、離死別者(30.0%)と、未婚者に比べそれぞれ多くなっている。

### 【平成17年度調査との比較】

男女ともに、「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」が、女性9ポイント、男性7ポイント減少しており前回1位から4位に順位を下げ、逆に「法律・制度の制定や見直しを行う」が、女性6ポイント、男性5ポイント増加している。

図23-2 暴力をなくすために必要なこと（性別、地域別、年代別、未既婚別、平成17年度調査結果）



学校における男女平等や性についての教育を充実させる

捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくする

家庭における男女平等や性についての教育を充実させる

メディアが倫理規定を強化する

被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる

